

平成17年度(第49回)
岩手県教育研究発表会発表資料

国 語

小学校低学年国語科において叙述に即して
確かに読む力を育む学習指導に関する研究
「イメージ構成シート」の活用をとおして

平成18年1月13日
長期研修生
所属校 水沢市立常盤小学校
早川真美

目 次

研究目的	1
研究仮説	1
研究の内容と方法	1
1 研究の内容と方法	1
2 授業実践の対象	2
研究結果の分析と考察	2
1 小学校低学年国語科において叙述に即して確かに読む力を育む学習指導に関する基本構想	2
(1) 小学校低学年国語科において叙述に即して確かに読む力を育む学習指導に関する基本的な考え方	2
(2) イメージ構成シートを活用した学習活動を取り入れる意義	3
(3) イメージ構成シートを活用した学習活動を取り入れた学習指導の展開	4
(4) 小学校低学年国語科において叙述に即して確かに読む力を育む学習指導に関する基本構想図	4
2 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察	4
(1) 実態調査の目的と内容	4
(2) 調査結果の分析と考察	5
(3) 実態調査から明らかになった問題点と課題	6
3 イメージ構成シートを活用した学習活動を取り入れた手だての試案の作成	7
(1) 手だての試案作成の観点	7
(2) 手だての試案	7
(3) 検証計画	8
4 授業実践及び実践結果の分析と考察	9
(1) イメージ構成シートを活用した学習活動を取り入れた授業実践の概要	9
(2) 実践結果の分析と考察	14
5 小学校低学年国語科において叙述に即して確かに読む力を育む学習指導に関する研究のまとめ	19
(1) 成果	19
(2) 課題	19
研究のまとめと今後の課題	19
1 研究のまとめ	19
2 今後の課題	20

おわりに

【参考文献】

【補充資料】

研究目的

小学校低学年国語科の「読むこと」においては、書かれていることの大体をとらえることができるようにするために、事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読む能力の育成が求められている。書かれていることをただ漫然と読むのではなく、叙述に即して内容をとらえながら読み取ることが重要である。

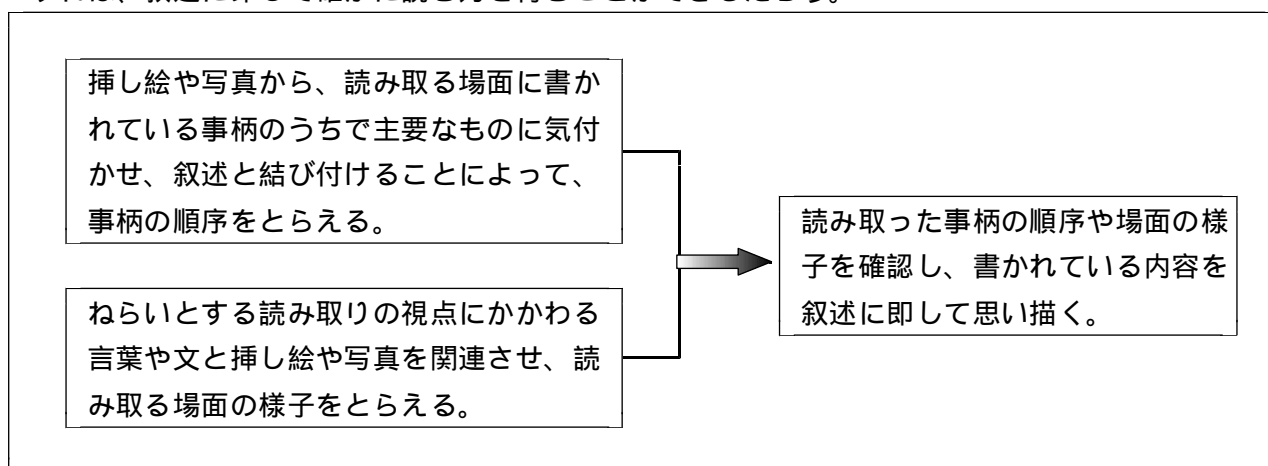
しかし、児童の実態をみると、文章を表面的に理解することはできても、書かれている事柄の順序や場面の様子などを理解しているとは言い難い。これは、叙述に基づいて、内容をイメージしながら読むための指導の工夫が十分ではなかったためと思われる。

このような状況を改善するためには、児童一人一人に、書かれている内容を言葉や文を手がかりにしてイメージ化させ、確かな読みへとつなげる活動を行わせることが必要である。そのためには、事柄の順序を整理し、挿し絵や写真と叙述を結び付ける「イメージ構成シート」を活用して、場面の様子を明確にし、書かれていることの大体をとらえさせる。そして、「イメージ構成シート」でとらえた内容を動作化や話し合いをとおして交流し合い、読み取った事柄の順序や場面の様子を確認させることで、叙述に即して確かに読む力を育むことができると考える。

そこで、この研究は、書かれている内容とイメージをつなぐ「イメージ構成シート」の活用をとおして、叙述に即して確かに読む力を育む学習指導について明らかにし、小学校低学年国語科の学習指導の改善に役立てようとするものである。

研究仮説

小学校低学年国語科の内容を読み取る学習指導において、次のようにイメージ構成シートを活用すれば、叙述に即して確かに読む力を育むことができるだろう。



研究の内容と方法

1 研究の内容と方法

- (1) 小学校低学年国語科において叙述に即して確かに読む力を育む学習指導に関する基本構想（文献法）

小学校低学年国語科において叙述に即して確かに読む力を育む学習指導に関する基本的な考え方をまとめ、構成要素を明らかにするとともに、叙述に即して確かに読む力を育む学習指導についての基本構想を立案する。

- (2) 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察（質問紙法）

児童の、言葉や文と挿し絵や写真を関連させながら読むことに関する実態を調査し、その分析と考察を行い、問題点と課題を把握し、手だての試案の作成に役立てる。

- (3) イメージ構成シートを活用した学習活動を取り入れた手だての試案の作成
基本構想及び実態調査に基づき、イメージ構成シートを活用した学習活動を取り入れた手だての試案を作成する。
- (4) 授業実践及び実践結果の分析と考察（授業実践、テスト法）
イメージ構成シートを活用した学習活動を取り入れた学習指導について、手だての試案に基づき、単元「サンゴの海の生きものたち」の授業実践を行う。また、検証計画に基づいて、叙述に即して確かに読む力の構成要素の育成状況について分析と考察を行う。
- (5) 小学校低学年国語科において叙述に即して確かに読む力を育む学習指導に関する研究のまとめ
実践結果の分析と考察に基づいて、叙述に即して確かに読む力を育む学習指導に関する研究のまとめをする。

2 授業実践の対象

水沢市立常盤小学校 第2学年 1学級（男子17名 女子20名 計37名）

研究結果の分析と考察

1 小学校低学年国語科において叙述に即して確かに読む力を育む学習指導に関する基本構想

- (1) 小学校低学年国語科において叙述に即して確かに読む力を育む学習指導に関する基本的な考え方

ア 叙述に即して確かに読む力とは

「叙述に即して確かに読む」とは、「言葉や文を手がかりに、事柄の順序や場面の様子に気付きながら読み、書かれていることの大体をとらえること」と考える。まず、「言葉や文を手がかりに」とは、「主語や述語、読み取りの視点にかかわる言葉など、場面の様子をイメージするために必要な言葉や文に着目すること」である。次に、「事柄の順序や場面の様子に気付きながら読む」とは、「着目した言葉や文を手がかりに事柄の順序や場面の様子を把握すること」である。そして、「書かれていることの大体をとらえる」とは、「動作化や話し合いをとおして、叙述に基づいてとらえた事柄の順序や場面の様子をイメージすること」である。しかし、低学年の児童にとって言葉や文だけを手がかりに目に見えない事柄の内容を理解するのは困難なことである。そのため、挿し絵や写真を文字表現に対する情報補足として活用しながら、一つ一つの語句や表現に注意し、叙述に即して確かに読む力を育む必要がある。そこで、本研究で目指す叙述に即して確かに読む力を「言葉や文と挿し絵や写真を関連させながら事柄の順序や場面の様子を把握し、書かれていることを叙述に即してイメージすること」とする。

この叙述に即して確かに読む力は、「事柄の順序をとらえる力」「場面の様子をとらえる力」「叙述に即してイメージする力」の三つで構成されると考える。「事柄の順序をとらえる力」とは、読み取る場面に主に書かれている対象や登場人物などの主要なものに気付き、叙述と結び付けることによって、書かれている事柄の順序を把握することである。「場面の様子をとらえる力」とは、ねらいとする読み取りの視点にかかわる言葉や文に着目しながら、読み取る場面の様子を把握することである。「叙述に即してイメージする力」とは、正しい読み取りに気付いたり、自分の読み取りを補足、修正したりしながら、書かれている内容を叙述に即して思い描くことである。これらの要素についてまとめたものが、次頁【表1】である。

以上のことから、本研究の目指す児童の姿を「言葉や文と挿し絵や写真を関連させながら事柄の順序や場面の様子を把握し、動作化や話し合いをとおして正しい読み取りに気付いた

り、自分の読み取りを補足、修正したりしながら、書かれている内容を叙述に即して思い描くことができる」とする。

イ 叙述に即して確かに読む力を育むことの意義

小学校低学年の「読むこと」の学習においては、文章に書かれていることの大体をとらえることができるようにしていくことが必要である。そのためには、一つ一つの語句や表現に注意し

ながら読む活動を工夫し、書かれている事柄の順序に従って内容を押さえたり、場面の様子に気付きながら読み取ったりする力をつけることが重要である。この力が確かなものとして身に付くことによって、読む楽しさやおもしろさを実感したり、内容を的確に理解したりできる、という点で意義がある。

(2) イメージ構成シートを活用した学習活動を取り入れる意義

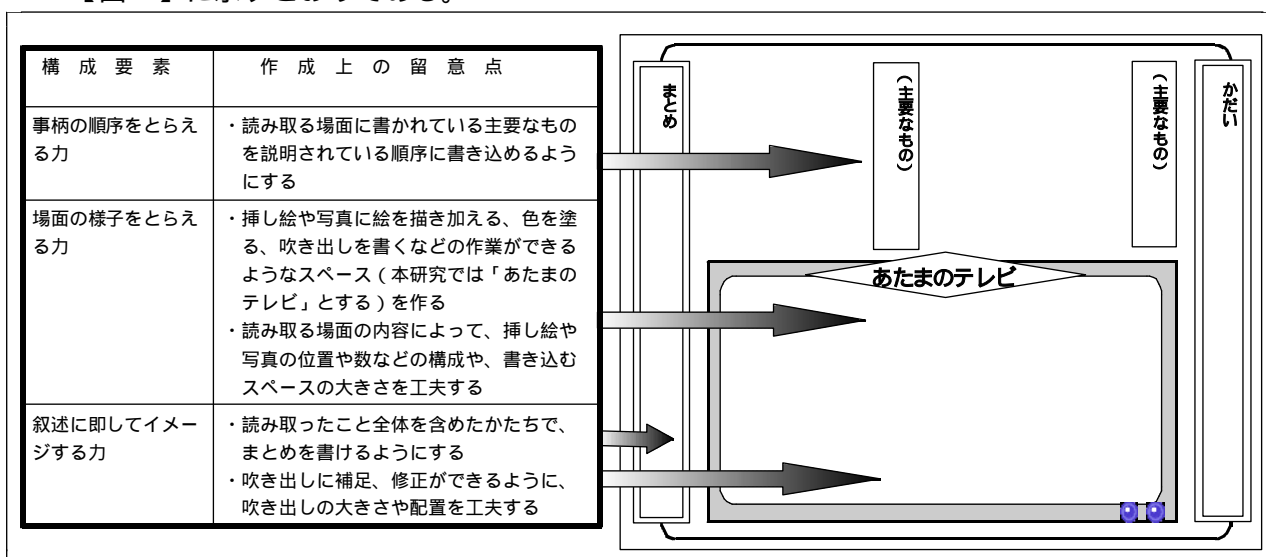
ア イメージ構成シートとは

叙述に即して確かに読む力を育む手だてとして、本研究ではイメージ構成シートを活用した学習活動を取り入れる。「イメージを構成する」とは、「事柄の順序や場面の様子を整理しながら、書かれている内容を明確にすること」ととらえる。イメージ構成シートは、言葉や文と挿し絵や写真を関連させながら事柄の順序や場面の様子を整理することで、読み取る場面の内容を明確に思い描けるようにするために考えたものであり、事柄の順序をとらえる 場面の様子をとらえる 読み取った内容を叙述に基づいて確認する、の三つの役割をもっている。

叙述に即して確かに読む力を育むためのイメージ構成シートの様式と作成上の留意点は、【図1】に示すとおりである。

【表1】叙述に即して確かに読む力の構成要素

構成要素	構成要素の意味
事柄の順序をとらえる力	読み取る場面に書かれている事柄のうちで主要なものに気付き、叙述と結びつけることによって、書かれている事柄の順序を把握すること
場面の様子をとらえる力	ねらいとする読み取りの視点に関わる言葉や文に着目しながら、読み取る場面の様子を把握すること
叙述に即してイメージする力	正しい読み取りに気付いたり、自分の読み取りを補足、修正したりしながら、書かれている内容を叙述に即して思い描くこと



【図1】イメージ構成シートの様式と作成上の留意点

イ イメージ構成シートを活用した学習活動を取り入れる意義

イメージ構成シートを活用することにより、児童は、事柄の順序やねらいとする読み取りの

視点にかかわる言葉や文に注意しながら文章を読み、書かれている内容を思い描くことができる。また、読み取ったことを動作化したり、話し合ったりする場において、その読み取りが叙述に即したものであるかということを確認する視点とすることもできる。このイメージ構成シートを活用した学習活動を取り入れることは、語句や表現に注意しながら文章を読むことにつながり、叙述に即して確かに読む力を育むという点で意義がある。

(3) イメージ構成シートを活用した学習活動を取り入れた学習指導の展開

イメージ構成シートを活用した学習活動を取り入れた学習指導では、イメージ構成シートを次の三つの段階で活用することにする。

ア 事柄の順序をとらえる段階

読み取る場面の挿し絵や写真から、書かれている事柄のうちで主要なものに気付かせ、叙述と結び付けて順序を確認する。そしてイメージ構成シートに書き、事柄の順序を整理する。このことにより、読み取る場面の大まかな流れを把握させる。

イ 場面の様子をとらえる段階

場面の様子について話し合い、イメージ構成シートの挿し絵や写真に、読み取ったことや思いついたことを言葉や絵、吹き出しなどで書き加え、書かれている内容を整理する。このことにより、読み取る場面の様子を把握させる。

ウ 読み取った内容を確認する段階

イメージ構成シートで読み取ったことを基に動作化や話し合いを行い、叙述に基づいて事柄の順序や場面の様子を確認することで、正しい読み取りに気付いたり、自分の読み取りを補足、修正したりする。このことにより、叙述に即したイメージをもたせる。

(4) 小学校低学年国語科において

叙述に即して確かに読む力を育む学習指導に関する基本構想図
これまで述べてきたことを基に、小学校低学年国語科において叙述に即して確かに読む力を育む学習指導に関する基本構想図を【図2】のように作成した。

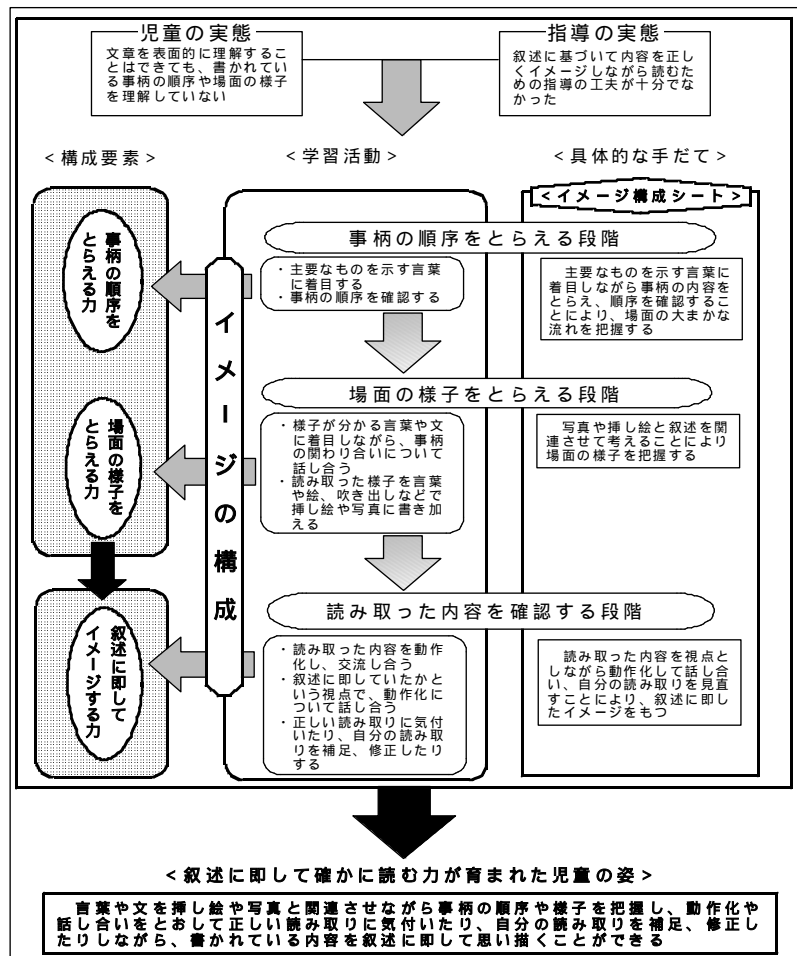
2 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察

(1) 実態調査の目的と内容

手だての試案を作成するに当たって、児童の国語の学習における叙述に即して確かに読むことに関する実態を把握するために、次のような目的と内容で質問紙を作成し、7月19日に実態調査を行った。

ア 調査の目的

この調査の目的は、研究対



【図2】小学校低学年国語科において叙述に即して確かに読む力を育む学習指導に関する基本構想図

象となる2年生児童の叙述に即して確かに読む活動や意識の実態を把握し、その問題点や課題について明らかにして、手だての試案の作成に役立てることである。

イ 調査の内容

- (ア) 挿し絵や写真と叙述を関連させながら読むことの実態に関する内容
- (イ) 吹き出しに言葉を書くことの実態に関する内容

ウ 調査の対象

水沢市立常盤小学校 2学年 1学級(男子17名 女子17名 計34名)

実態調査の具体的な観点と設問内容は、次の【表2】のとおりである。

【表2】実態調査の具体的な観点と設問内容

調査の観点	設問番号	設問内容
挿し絵や写真と叙述を関連させながら読むことの実態 ・挿し絵や写真を意識して読むことの実態 ・挿し絵や写真と言葉や文を関連させながら読むことの実態	1	教科書を読むとき、挿し絵や写真を見ているか。
		書かれている言葉や文と比べながら、挿し絵や写真を見ることがあるか
場面の様子を想像し、挿し絵の吹き出しに言葉を書くことの実態	2	簡単な文と挿し絵から、その場面の言葉を想像し、吹き出しに言葉を書く

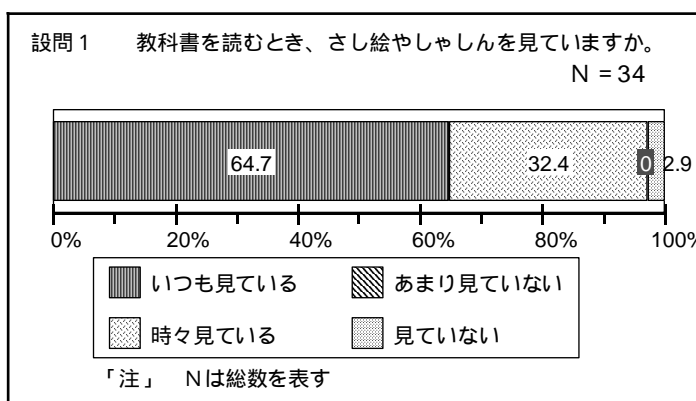
(2) 調査結果の分析と考察

ア 挿し絵や写真と叙述を関連させながら読むことの実態

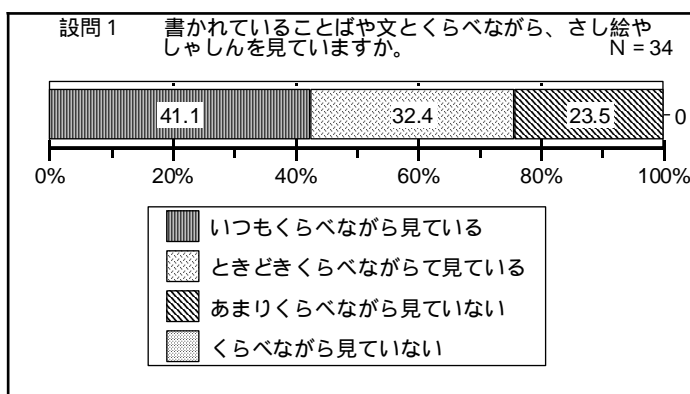
(ア) 【図3】は、国語の学習で教科書を読むときの、挿し絵や写真を意識しながら読むことに関する実態について調査した結果である。「いつも見ている」は64.7%、「ときどき見ている」は、32.4%、「あまり見えていない」は0%、「見ていない」は、2.9%となっている。

このことから、ほぼ全ての児童が、挿し絵や写真を意識して文章を読んでいることが分かる。

(イ) 【図4】は、設問1で「いつも見ている」「見ている」と答えた児童を対象に、言葉や文と挿し絵や写真を関連させながら読むことに関する実態について調査した結果である。「いつもくらべながら見ている」は、41.1%、「ときどきくらべながら見ている」は32.4%「あまりくらべながら見えていない」は23.5%、「くらべながら見えていない」は0%となっている。



【図3】挿し絵や写真を意識しながら読むことの実態



【図4】言葉や文と挿し絵や写真を関連させながら読むことの実態

このことから、23.5%の児童は、文章を読むとき挿し絵や写真を見てはいるが、言葉や文と関連させながら見ていないことが分かる。

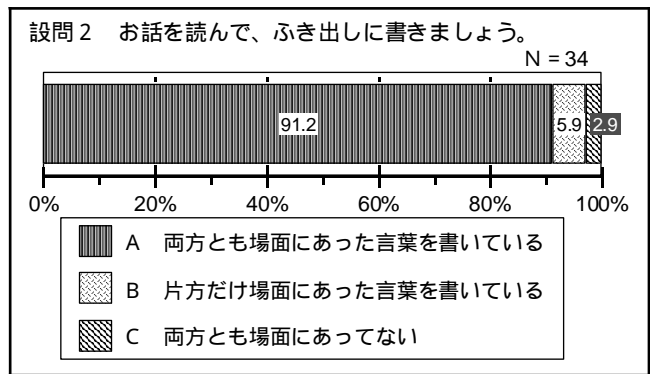
イ 場面の様子を想像し、挿し絵の吹き出しに言葉を書くことの実態

【図5】は、場面の様子を想像し、挿し絵の吹き出しに言葉を書くことに関する実態について、調査した結果である。A（両方とも場面にあった言葉を書いている）は91.2%、B（片方だけ場面にあった言葉を書いている）は5.9%、C（両方とも場面にあっていない）は2.9%となっている。

このことから、ほぼ全ての児童が、場面にあった言葉を吹き出しに書くことができていることが分かる。

この設問における、A、B、Cそれぞれの記述例を【資料1】に示す。

【資料1】設問2の記述例



【図5】場面の様子を想像し挿し絵の吹き出しに書くことの実態

Aの記述例

Aの記述例

Bの記述例

Cの記述例

(3) 実態調査から明らかになった問題点と課題

実態調査から明らかになった問題点を整理し、その要因をとらえることによって、課題を明らかにする。

ア 実態調査の分析から明らかになった問題点

教科書を読むときに、挿し絵や写真を見ていると答えた児童は97.1%と多いが、そのうちの23.5%の児童は、あまり叙述と関連させて見ていない。

イ 要因

挿し絵や写真と叙述を関連させて見ていない児童は、挿し絵や写真を書かれている文章の情

報補足としてとらえていないと考えられる。そのために、書かれている場面の様子を思い浮かべられないことが予想される。

ウ 課題

- (ア) 児童が、読み取る場面を挿し絵や写真と関連させながらとらえられるように、書かれている主要なものの確認の仕方を工夫する必要がある。
- (イ) 場面の様子を想像して、吹き出しに言葉を書くことができるという調査結果を活かし、イメージ構成シートの挿し絵に、吹き出しを書いたり、絵を描き加えたりする活動においては、叙述に即しながら、児童一人一人の思いや考えを大事にするような支援の仕方を工夫する必要がある。

3 イメージ構成シートを活用した学習活動を取り入れた手だての試案の作成

(1) 手だての試案作成の観点

基本構想及び実態調査の分析結果より明らかになったことを考慮して、以下の観点からイメージ構成シートを活用した学習活動を取り入れた手だての試案を作成していくこととする。

ア 言葉や文と挿し絵や写真を関連させながら考えることができるようにする。

イ 叙述に即しながら、児童一人一人が、自分の思いや考えを吹き出しの言葉や絵などで表すことができるようにする。

(2) 手だての試案

手だての試案作成の観点を基に、イメージ構成シートを活用した学習活動の指導上の留意点を以下のように考える。

段階	学習活動	指導の手だて	
		イメージ構成シートの活用	指導上の留意点 (太字部分は実態調査を受けての配慮事項)
導入	<p>本時の学習課題を確認する</p> <p>挿し絵や写真から、読み取る場面に書かれている主要なものに気付く</p>		<ul style="list-style-type: none"> すべての挿し絵や写真を用意し、本時の学習場面にかかわるものを、児童に選ばせる
展開	<p>事例の順序をとらえる</p> <p>学習の見通しをもつ</p> <p>学習場面を音読する</p> <p>書かれている主要なものを、読み取る場面の文章から見つける</p> <p>読み取る場面の事例の順序を確認する</p>	<p>読み取る場面の文章から見つけた主要なものを説明されている順序に抜き出して書く</p>	<ul style="list-style-type: none"> 抜き出した主要なものを書き込むことで、どんな順序で何を読み取っていくのが、分かるようにする 挿し絵や写真と文中の言葉を結び付けて指し示し、読み取る場面の主要なものを確認させてから書かせる
	<p>場面の様子をとらえる</p> <p>内容を読み取る</p> <p>課題にかかわる言葉や文にサイドラインを引き、発表する。</p> <p>読み取ったことについて、話し合う。</p> <p>読み取ったことを、絵や吹き出しなどで書く</p>	<p>書かれている位置関係や、かかわり合いのタイミングなどが分かるように、読み取ったことを言葉や絵、吹き出しなどで書き込む</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文章には書かれていないが、挿し絵や写真から分かることにも、気付かせる 様子を思い描く手がかりとなる言葉や文、挿し絵や写真には表れていない事例に着目して読み取らせる 挿し絵や写真を見たり文章を読み返したりして、思いを巡らせる時間を十分に取る
	<p>読み取った内容を確認する</p> <p>読み取った内容を動作化し、交流し合う</p> <p>動作化の内容について話し合う</p> <p>本時のまとめをする</p> <p>本時の学習のまとめを書く</p> <p>学習場面を音読する</p>	<p>読み取った内容(位置関係・かかわり合いの順序やタイミング・台詞など)を確認して叙述に即したイメージをもち、学習のまとめを書く</p>	<ul style="list-style-type: none"> 動作化の途中で、動き方や台詞の根拠などを児童に確認しながら話し合わせ、正しい読み取りに気付かせたり、自分の読み取りを補足、修正させたりする 読み取ったことを、文章と関連させながらまとめる
終末	<p>本時の学習を振り返る</p>		<ul style="list-style-type: none"> イメージ構成シートへの書き込みや、動作化、話し合いをおして、場面の様子を思い描くことができたか、という観点で振り返りをさせる

【図6】イメージ構成シートを活用した学習活動を取り入れた手だての試案

ア 言葉や文と挿し絵や写真を関連させながら考えられるようにする工夫

読み取る場面の文章から見つけた主要なものを黒板に示した挿し絵や写真と関連させて指し示すことにより、挿し絵や写真と文章が同じ内容を表すものであることを、児童が意識しながら学習を進めることができるようにする。

イ 叙述に即しながら、児童一人一人が自分の思いや考えを言葉や絵、吹き出しなどで表すことができるようにする工夫

場面の様子をとらえる段階で、読み取ったことを基にして、イメージ構成シートの挿し絵に言葉や絵、吹き出しなどを書き加える活動では、児童が挿し絵や写真、文章を手がかりに場面の様子を思い浮かべ、考えることができるように時間を十分に取るようにする。

これまで述べてきたことを基に、イメージ構成シートを活用した学習活動を取り入れた手だての試案を前頁【図6】のように作成した。

(3) 検証計画

授業実践をとおして叙述に即して確かに読む力の育成状況をとらえ、その結果により、手だての試案の有効性、仮説の妥当性について分析し、考察する。【表3】は、検証内容と検証方法、及び処理・解釈の方法を示したものである。

【表4】は児童のイメージ構成シートへの記述から、「叙述に即してイメージする力」の育成状況を判断するときの基準を示したものである。さらに次頁【表5】は、イメージ構成シートの活用にかかわる主な発問に対する児童の学習の様子や記述内容から、三つの力の育成状況を判断するときの基準を示したものである。

【表3】検証計画

検証項目	検証内容	検証方法	処理・解釈の方法
叙述に即して確かに読む力の育成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・事柄の順序をとらえる力 ・場面の様子をとらえる力 ・叙述に即してイメージする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・テスト法により、事前事後に実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・t検定（平均の差の検定）を行い分析する
		<ul style="list-style-type: none"> ・抽出児の学習の様子を観察する 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の様子や記述内容から判断するときの基準に基づいて、授業記録（ビデオ）を分析し、各段階の学習活動における学習の様子の変容をとらえ、考察する
	<ul style="list-style-type: none"> ・叙述に即してイメージする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のイメージ構成シートへの記述により、検証する 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の様子や記述内容から判断するときの基準に基づいて、分析し考察する

【表4】記述内容から判断するときの基準

検証内容	判断するときの基準		
	A	B	C
叙述に即してイメージする力	言葉や文を根拠にしながら、自分の思いや考えも含めて、場面の把握に必要な言葉や絵吹き出しなどを全て書いている	言葉や文を根拠に、場面の把握に必要な言葉や絵、吹き出しなどを全て書いている	<ul style="list-style-type: none"> ・叙述と関連のない言葉や絵吹き出しなどを書いている ・場面の把握に必要な言葉や絵、吹き出しなどを書いていないところがある

【表5】学習の様子や記述内容から判断するときの基準（3 / 11時間）

検証内容	主な発問	判断するときの基準 (<input type="checkbox"/> は、Aと判断する基準がない)		
		A	B	C
事柄の順序をとらえる力			写真から気付いた主要なものを、言葉や文を根拠にして確認している	写真から気付いた主要なものを、言葉や文を根拠にして確認していない
	・クマノミとイソギンチャクでは、どちらが先に出てきていますか		<発言例> ・「イソギンチャクです。」 ・「クマノミです。」 <行動例> ・指さしたり、サイドラインを引いたりしている	<発言例> ・イソギンチャク、クマノミと関係のない発言 <行動例> ・イソギンチャク、クマノミを文章の中から見つけていない
	・どうしてイソギンチャクだと分かりましたか		<発言例> ・「細長いしよく手をゆらゆらさせています、と書いてあるからです。」 <行動例> ・指さしたり、サイドラインを引いたりしている	<発言例> ・言葉や文を根拠にしていない発言 <行動例> ・根拠となる言葉や文を見つけていない
	・どうしてクマノミだと分かりましたか		<発言例> ・「きれいなオレンジ色の魚、と書いてあるからです。」 <行動例> ・指さしたり、サイドラインを引いたりしている	<発言例> ・言葉や文を根拠にしていない発言 <行動例> ・根拠となる言葉や文を見つけていない
場面の様子をとらえる力		言葉や文を根拠にし、自分の思いや考えをもちながら場面の様子を読み取っている	言葉や文を根拠に場面の様子を読み取っている	言葉や文に関連させて場面の様子を読み取っていない
	・イソギンチャクのひみつは何ですか		<発言例> ・「しよく手に、どくのはりがあります。」 <行動例> ・指さしたり、サイドラインを引いたりしている	<発言例> ・言葉や文を根拠にしていない発言 <行動例> ・根拠となる言葉や文を見つけていない
	・クマノミのひみつは何ですか		<発言例> ・「クマノミの体は、ねばねばしたえきでおおわれています。」 <行動例> ・指さしたり、サイドラインを引いたりしている	<発言例> ・言葉や文を根拠にしていない発言 <行動例> ・根拠となる言葉や文を見つけていない
	・どんなときにどくのはりが出るのですか	<発言例> ・「小さなどうぶつをつかまえるときだと思います。」 <行動例> ・指さしたり、サイドラインを引いたりしている	<発言例> ・「これで、小さなどうぶつをつかまえて食べているのです。と書いてあります。」 <行動例> ・指さしたりサイドラインを引いたりしている	<発言例> ・言葉や文を根拠にしていない発言 <行動例> ・根拠となる言葉や文を見つけていない
	・おおわれているというはどういうことでしょうか	<発言例> ・「包まれているということです。」 (全て、全部がという意味を含んでいる) <行動例> ・上記の発言に同調している	<発言例> ・「囲まれていることです。」 (不十分ではあるが、自分の言葉で説明している) <行動例> ・上記の発言に同調している	<発言例> ・全く違う意味の発言 <行動例> ・おおわれていることの意味が分からない
叙述に即してイメージする力		正しい読み取りに基づいて自分の読み取りを見直し、自分の思いや考えももちながら、書かれている内容を叙述に即して思い描いている	正しい読み取りに基づいて自分の読み取りを見直し、書かれている内容を叙述に即して思い描いている	自分の読み取りが叙述に即していないにもかかわらず、補足、修正しない
	・あたまのテレビの吹き出しを見直しましょう	<記述例> Bの記述に加えてイソギンチャク ・「このはりで、小さなどうぶつをつかまえるんだよ。」 クマノミ ・「だから、イソギンチャクにさされなんだよ。」 <行動例> ・自分の読み取りを見直し、補足、修正することでAと判断される内容になっている ・Aと判断される自分の読み取りを読み返している(補足、修正は無い)	<記述例> イソギンチャク ・「わたしのしよく手には、どくのはりがあるんだよ。」 クマノミ ・「わたしの体は、ねばねばしたえきでおおわれているんだよ。」 <行動例> ・自分の読み取りを見直し、補足、修正することでBと判断される内容になっている ・Bと判断される自分の読み取りを読み返している(補足、修正は無い)	<記述例> イソギンチャク ・しよく手にどくのはりがあることが、書かれていない クマノミ ・ねばねばしたえきでおおわれていることが書かれていない <行動例> ・Cと判断される自分の読み取りを補足、修正しない

なお、4 / 11時間と6 / 11時間の学習の様子や記述内容から判断するときの基準は、【補充資料3】～【補充資料3】に掲載する。

4 授業実践及び実践結果の分析と考察

(1) イメージ構成シートを活用した学習活動を取り入れた授業実践の概要

ア 授業実践の計画

(ア) 対象 水沢市立常盤小学校 第2学年(男子17名 女子20名 計37名)

(イ) 授業実践期間 平成17年9月1日～9月21日

(ウ) 指導計画 単元「サンゴの海の生きものたち」・・・11時間(10頁【資料2】及び【補充資料4】を参照)

【資料2】単元「サンゴの海の生きものたち」の指導計画（11時間扱い）

時	学習指導目標	学 習 活 動	イメージ構成シートの活用
1	範読を聞き、初めて知ったことや驚いたこと、疑問に思ったことについて書くことができる	海の中のイメージを広げる ・拡大した写真から、海の中のイメージをもつ 範読を聞き、感想を書く 学習のめあてをもつ ・単元名とリード文に着目し、めあてを把握する ・「海の生き物図鑑」を作ることを知る	
2	文章を意味段落に分け、学習の見通しをもつことができる	写真を文章に書かれている順に並べる ・文章全体の大まかな流れをとらえる 文章を意味段落に分ける ・写真と学習のめあてを手がかりに、文章を意味段落に分ける	
3 4 6	生き物たちの体の仕組みや、かかわり合いを読み取ることができる	読み取る事柄を確認する ・写真と学習課題から、何について読み取っていくのかを把握する 書かれている内容を読み取る ・学習課題にかかわる言葉や文に着目し写真と関連させながら書かれている内容を読み取る 正しい読み取りを確認する ・読み取ったことを動作化し、話し合うことで、正しい読み取りを確認する	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">事柄の順序をとらえる</div> <ul style="list-style-type: none"> ・写真と文章から確認した主要なものを記入させる <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">場面の様子をとらえる</div> <ul style="list-style-type: none"> ・あたまのテレビに、読み取り、思い描いたことを言葉や絵、吹き出しなどで書き込ませる <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">叙述に即してイメージする</div> <ul style="list-style-type: none"> ・あたまのテレビに書いたことを基に、動作化させる ・動作化や話し合いで確認したことを基に、自分の読み取り（あたまのテレビ）を見直し、必要に応じて補足、修正させる
5 7	読み取ったかかわり合いを文章に書いてまとめることができる	読み取ったかかわり合いの様子を思い出して整理する ・写真を基に、思い出す ・かかわり合いを表す言葉や文に注目する かかわり合いの様子を文章に書いてまとめる	

本資料では以下は省略し、【補充資料4】に掲載する。

イ 授業実践の概要

手だての試案に基づいて作成した指導展開案（【補充資料5】～【補充資料5】を参照）に従い、授業実践を行った。

11～13頁【資料3】～【資料3 - 】は、イメージ構成シートを活用した学習活動を取り入れた授業実践3時間の概要である。

【資料3 - 】イメージ構成シートを活用した学習活動を取り入れた授業実践の概要（3 / 11時間）

授業実践1 イソギンチャクとクマノミの体の仕組みを読み取る（3 / 11時間）

本時の目標 イソギンチャクとクマノミの体の仕組みを読み取り、体の秘密を教える吹き出しを書くことができる。

段階	学習活動	イメージ構成シートの活用
事柄の順序をとらえる	1 書かれている主要なものを、文章から見つける 2 読み取る場面の事柄の順序を確認する	<p style="text-align: center;">教師の働きかけ</p> <p style="text-align: right;">児童の思考・反応</p> <p>課題 生きものたち（イソギンチャクとクマノミ）の「体はかせ」になろう。</p> <p>どちらの生き物のことが先に書いてありますか。書いてある順に、イソギンチャク、クマノミと書きましょう。</p> <p>はじめに、イソギンチャクの体。つぎに、クマノミの体のことを勉強するんだな。</p> <p><イメージ構成シートへの記入></p> <p>写真の生き物がイソギンチャク、クマノミだと分かる言葉や文にサイドラインを引きましょう。</p> <p>クマノミの体に、オレンジ色を塗りましょう。</p> <p>きれいなオレンジ色の魚と書いているから分かるよ。</p> <p>細長いたくさんの触手をゆらゆらさせていると書いているから分かるよ。</p>
場面の様子をとらえる	3 課題にかかわる言葉や文にサイドラインを引き、話し合う 4 読み取ったことを絵や吹き出しなどで書く	<p>イソギンチャクとクマノミの体の秘密が分かる言葉や文にサイドラインを引きましょう。</p> <p>クマノミの体は、ねばねばした液で覆われているんだね。</p> <p>イソギンチャクの触手には、毒の針があるって書いてある。</p> <p>体の秘密を教えてくださいますよ。何と言っているのか、吹き出しに書きましょう。</p> <p>ねばねばした液で覆われているように、クマノミに色を塗りましょう。</p> <p>見えない毒の針を、触手に書いてみましょう。</p> <p><イメージ構成シートへの記入></p>
読み取った内容を確認する	5 動作化や話し合いを通して、正しい読み取りを確認する 6 本時のまとめをする	<p>イソギンチャクとクマノミになってみて、あたまのテレビの吹き出しに付け足したいことや、直したいことがあったら書きましょう。</p> <p>ねばねばした液で覆われているから刺されない事を付け足そう。</p> <p>「はり」が足りなかった。</p> <p>イソギンチャクとクマノミの体の秘密をまとめましょう。</p> <p>イソギンチャクとクマノミの、「体はかせ」になれたよ。</p> <p>まとめ イソギンチャクのしょく手には、どくのはりがあります。クマノミの体は、ねばねばしたえきでおおわれています。だからクマノミは、さされません。</p> <p><イメージ構成シートへの記入></p>

〔授業の様子〕

- クマノミに覆われているように色を塗る活動では、体全体に色を塗らせようと考えていたが、違う塗り方をして覆われている様子を表していた児童もいた。この児童に「覆われている」の意味を確認したが、既に正しくとらえることができていた。
- 毒の針を書いたり、ねばねばした液に見立てて色を塗ったりしたことで、生き物の秘密が具体的なものとしてイメージできたようである。ほとんどの児童が「どくのはり」と「ねばねばしたえき」を正しくとらえて吹き出しに書くことができた。
- 場面の様子を読み取る段階の活動で、吹き出しに書き込めなかった児童も多かったが、正しい読み取りを確認する活動で、足りない部分を全員付け足して書くことができた。

【資料3】 イメージ構成シートを活用した学習活動を取り入れた授業実践の概要（4 / 11時間）

授業実践2 イソギンチャクとクマノミのかかり合いを読み取る（4 / 11時間）

本時の目標 大きな魚や小さな魚から守り合っているイソギンチャクとクマノミのかかり合いを読み取り、それぞれの立場から吹き出しを書くことができる。

段階	学 習 活 動	イメージ構成シートの活用
専 柄 の 順 序 を と ら え る	1 書かれている主要なものを、文章から見つける 2 読み取る場面の事柄の順序を確認する	<p style="text-align: center;">教師の働きかけ 児童の思考・反応</p> <p>課題 生きものたち（イソギンチャクとクマノミ）の「かかかり合いはかせ」になろう。</p> <p>写真には写っていない生き物が書いてあります。指を指して、サイドラインを引きましょう。</p> <p>5段落には「イソギンチャクを食べる大きな魚」、6段落には「クマノミを食べにくる小さな魚」と書いてあるよ。</p> <p>書いてある順に、クマノミ、イソギンチャクと書きましょう。</p> <p>はじめに、クマノミの敵が来たとき。次に、イソギンチャクの敵が来たときのことを勉強するんだな。</p> <p style="text-align: center;">＜イメージ構成シートへの記入＞</p>
場 面 の 様 子 を と ら え る	3 課題にかかわる言葉や文にサイドラインを引き話し合う 4 読み取ったことを絵や吹き出しなどで書く	<p>大きな魚と小さな魚は、あたまのテレビのどこに書けばいいでしょう。分かる言葉や文にサイドラインを引きましょう。</p> <p>5段落に「近づいてきません」と書いてあるから、離れたところに書こう。</p> <p>6段落に「近づいてくると」と書いてあるから、イソギンチャクの近くに書けばいいのかな。</p> <p>小さな魚をあたまのテレビに書きましょう。</p> <p>小さな魚に食べられなかったイソギンチャクは、何と言っているのが、吹き出しに書きましょう。</p> <p>大きな魚をあたまのテレビに書きましょう。近づけない大きな魚は、どんな表情をしているのかな。大きな魚の目もかいてみましょう。</p> <p>追い払っているクマノミは、何と言っているのが、吹き出しに書きましょう。</p> <p>大きな魚に食べられないクマノミは、何と言っているのが、吹き出しに書きましょう。</p> <p>追い払っているクマノミは、どんな表情をしているのかな。目をかききましょう。</p> <p>イソギンチャクの中にいるクマノミは、どんな表情をしているのかな。目をかききましょう。</p> <p style="text-align: center;">＜イメージ構成シートへの記入＞</p>
読 み 取 っ た 内 容 を 確 認 す る	5 動作化や話し合いを通して、正しい読み取りを確認する 6 本時のまとめをする	<p>イソギンチャクとクマノミになってみて、あたまのテレビの吹き出しに付け足したいことや、直したいことがあったら書きましょう。</p> <p>「食べたらゆるさないぞ」を付け足そう。</p> <p style="text-align: center;">＜イメージ構成シートへの記入＞</p> <p>イソギンチャクとクマノミのことが、何と書いてありますか。</p> <p>イソギンチャクとクマノミの、『かかかり合いはかせ』になれたよ。</p> <p>まとめ こうして、イソギンチャクとクマノミは、たがいにまもり合っているのです。</p> <p style="text-align: center;">＜イメージ構成シートへの記入＞</p>

＜授業の様子＞

- ・写真にも挿し絵にもいない生き物を文章から見つける活動は、児童がとても意欲的に取り組んでいた。なんとか答えを見つけようと、一生懸命に文章を読む姿が多く見られた。
- ・場面の様子をとらえる段階で言葉や文を根拠に生き物の表情を考えさせ、「あたまのテレビ」のクマノミに目を書き込ませたことで、かかかり合いがとらえやすくなったようである。ほぼ全員が、時間内に三つの吹き出しに書き込むことができた。
- ・前の時間に板書で使った「あたまのテレビ」の挿し絵を引き続き使った。毒の針やねばねばした液が書かれているので、前の時間に学習した内容と結び付けながら読み取ることができた。

【資料3】 イメージ構成シートを活用した学習活動を取り入れた授業実践の概要（6 / 11時間）

授業実践3 ホンソメワケベラと大きな魚たちのかかわり合いを読み取る（6 / 11時間）

本時の目標 ホンソメワケベラと大きな魚たちの、掃除をしてもらい、食べ物ももらっているという関係を読み取り、それぞれの立場から吹き出しを書くことができる。

段階	学習活動	イメージ構成シートの活用
		<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">教師の働きかけ</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">児童の思考・反応</div> </div>
事柄の順序をとらえる	1 書かれている主要なものを、文章から見つける	<p>課題 生きものたち（ホンソメワケベラと大きな魚たち）の「かかわり合いはかせ」になろう。</p> <p>初めに出てきたのは、どちらの生き物でしょう。</p> <p>どうして、この魚がホンソメワケベラだと分かりましたか。分かる言葉や文に、サイドラインを引きましょう。</p> <p>ホンソメワケベラは、何をしに大きな魚の口の中に入って行くのでしょうか。</p>
	2 読み取る場面の事柄の順序を確認する	<p>はじめに、ホンソメワケベラのこと書いてあるよ。</p> <p>明るい青色の体、頭からしっぽにかけて黒いすじが一本、と書いてあるよ。</p> <p>はじめに、ホンソメワケベラが大きな魚に何をするか。次に、大きな魚がホンソメワケベラに何をするかを勉強するんだな。</p> <p><イメージ構成シートへの記入></p>
場面の様子をとりえる	3 課題にかかわる言葉や文にサイドラインを引き話し合う	<p>口の中にホンソメワケベラが入ってきたとき、大きな魚は、どんな表情なのでしょう。分かる言葉や文にサイドラインを引きましょう。</p> <p>8段落に、「きれいにそうじしてくれるのを知っている」と、書いてあるから、その大きな魚は、嬉しそうににこにこしていると思います。</p>
	4 読み取ったことを絵や吹き出しなどで書く	<p>掃除してもらっている大きな魚は、何と言っているでしょう。吹き出しに書きましょう。</p> <p>8段落の大きな魚の目を書きましょう。</p> <p>9段落の大きな魚は、どんな表情をしているかな。目を書きましょう。</p> <p>掃除をしているホンソメワケベラは、何と言っているでしょう。吹き出しに書きましょう。</p> <p><イメージ構成シートへの記入></p>
読み取った内容を確認する	5 動作化や話し合いを通して、正しい読み取りを確認する	<p>ホンソメワケベラと大きな魚になってみて、あたまのテレビの吹き出しに付け足したいことや直したいことがあったら書きましょう。</p> <p>「口や体をきれいにしてくれてありがとう」を付け足そう。</p> <p><イメージ構成シートへの記入></p>
	6 本時のまとめをする	<p>ホンソメワケベラと大きな魚たちのかかわり合いは、何とまとめたらいいでしょう。</p> <p>ホンソメワケベラと大きな魚たちの、「かかわり合いはかせ」になれたよ。</p> <p>まとめ こうして、ホンソメワケベラと大きな魚たちは、たがいにやぐに立っているのです。</p> <p><イメージ構成シートへの記入></p>

<授業の様子>

- ・大きな魚の目を書くことで、掃除してもらおうことが大きな魚にとって嬉しいことであることがとらえられたようである。お互いに感謝の言葉を言い合っている吹き出しが多かった。
- ・言葉や文から考えることが定着してきている。発問するとすぐ指定された段落を読み始め、サイドラインを引く児童が多くなった。
- ・挿し絵や写真から、大きな魚をホンソメワケベラと勘違いし、小さな魚を食べ物としてもらっていると思っている児童がいた。文章を読み直させ、どちらがホンソメワケベラかということと、虫を食べ物としてもらっていることを確認させた。

(2) 実践結果の分析と考察

授業実践をとおして手だての試案の有効性をみるために、「叙述に即してイメージする力」について、イメージ構成シートの記述を8頁の【表4】、9頁の【表5】及び【補充資料3】～【補充資料3】に示した学習の様子や記述内容から判断するときの基準に基づき分析し、考察を行った。また、授業実践の前後に同一問題でテストを実施し、その結果をt検定によって比較し、三つの構成要素それぞれの育成状況をとらえた。

以下は、叙述に即して確かに読む力の三つの構成要素の育成状況である。

ア 事柄の順序をとらえる力の育成状況

【表6】は、事柄の順序をとらえる力の育成状況について、t検定の結果を表したものである。この結果から、有意差が認められた。

【図7】は、事柄の順序をとらえる力の設問ごとの正答率を示したものである。書かれている主要なものをとらえる問題（設問1）は、事前テストの段階で75.7%の児童が正答であった。しかし、24.3%の児童が、「ささごい」を「ささいご」「ささご」などと間違えて記述していた。事後テストでは、事前テストのような間違いが少なくなり、89.2%の児童が正答であった。また、書かれている順序をとらえる問題（設問3）は、正答率が事前テストでは56.8%であったが、事後テストでは86.5%と、大きな伸びが確認できた。

このように力の伸びがみられたのは、以下の理由からと考える。

事柄の順序をとらえる段階で、主要なものを示す言葉にサイドラインを引かせたり、イメージ構成シートに書き込ませたりしながら、写真から気付いた主要なものを言葉や文から確認させる活動と、どんな順序で書かれているのか確認させる活動を行った。このことにより、児童は、書かれている主要なものを正確にとらえ、書かれている順序に気をつけながら読むことができるようになったと考える。

これらのことから、事柄の順序をとらえる力は、おおむね育成されたと考える。

イ 場面の様子をとらえる力の育成状況

次頁【表7】は、場面の様子をとらえる力の育成状況について、t検定の結果を表したものである。この結果から有意差が認められた。

次頁【図8】は、場面の様子をとらえる力の設問ごとの正答率を示したものである。設問2は、「ささごい」の体の特徴を読み取る問題である。事前テストでは、3点（全て正答）の児

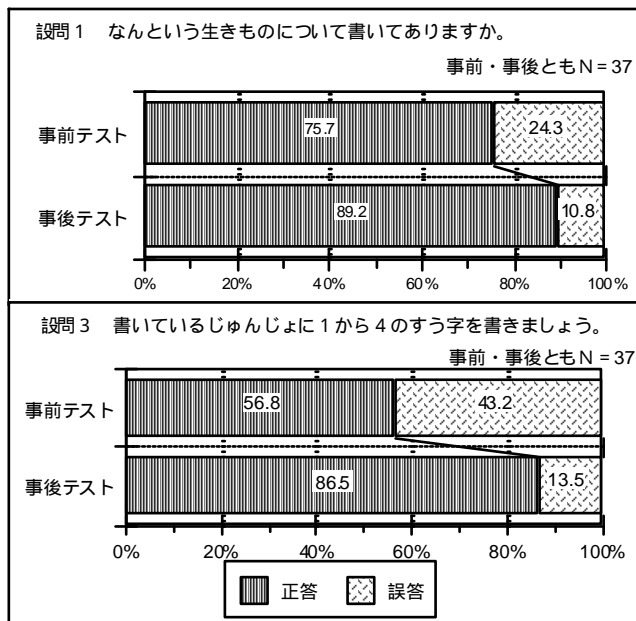
【表6】事柄の順序をとらえる力の育成状況

検定内容	事前テスト		事後テスト		相関係数	t値	有意差
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差			
事柄の順序をとらえる力	1.32	0.63	1.76	0.43	0.40	4.30	*

【注】 1 事前テストは9月1日、事後テストは9月14日に実施した
 2 *印は、t検定において、有意水準5%で有意差があることを示している
 3 設問は2問で、1問につき1点、2点満点とした
 4 Nは総数を表す
 5 t検定に用いた公式は、次のとおりである

$$t = \frac{\bar{X}_1 - \bar{X}_2}{\sqrt{\frac{s_1^2 + s_2^2}{2} \cdot \frac{1}{n}}}$$

$$r = \frac{s_1 s_2}{s_1^2 + s_2^2}$$
 X₁とX₂は、事前と事後テストの平均点、
 s₁とs₂は、事前と事後テストの標準偏差、
 rは相関係数、nは人数を表す



【図7】事柄の順序をとらえる力に関する設問ごとの正答率

童が、64.9%であり、約3分の1の児童には、誤答があった。しかし、事後テストでは89.2%の児童が3点（全て正答）であった。同時に、1点、2点の児童も減り、0点はいなかった。設問4は、ささごいが魚をおびき寄せるときの状況を読み取る問題である。事前テストでは、2点の児童が86.5%、0点も含め誤答がある児童は13.5%であった。事後テストでは、2点の児童が89.2%、1点の児童は10.8%であり、0点はいなかった。事前テストとの差は大きくはないが、設問2と同様、約9割の児童が2点であった。

このように全て正答である児童が事後テストで増えたのは、以下の理由からと考える。

場面の様子をとらえる段階では、児童に言葉や文を根拠にして、書かれている内容を明確に思い描かせるために、根拠となる言葉や文にサイドラインを引いて着目させ、「あたまのテレビ」の挿し絵に色を塗ったり、表情を書き込ませたりする活動を行った。このことにより、児童は、言葉として読み取ったことを具体的にイメージしながら読むことができるようになったと考えられる。

これらのことから、場面の様子をとらえる力は、おおむね育成されたと考える。

ウ 叙述に即してイメージする力の育成状況

【図9】は、3時間分のイメージ構成シートへの記述内容を8頁の【表4】、9頁の【表5】及び【補充資料3】～【補充資料3】に示した、学習の様子や記述内容から判断するときの基準に基づき分析した結果をまとめたものである。イメージ構成シートを活用した3時間分の実際の記述例は、次頁【表9】に示す。

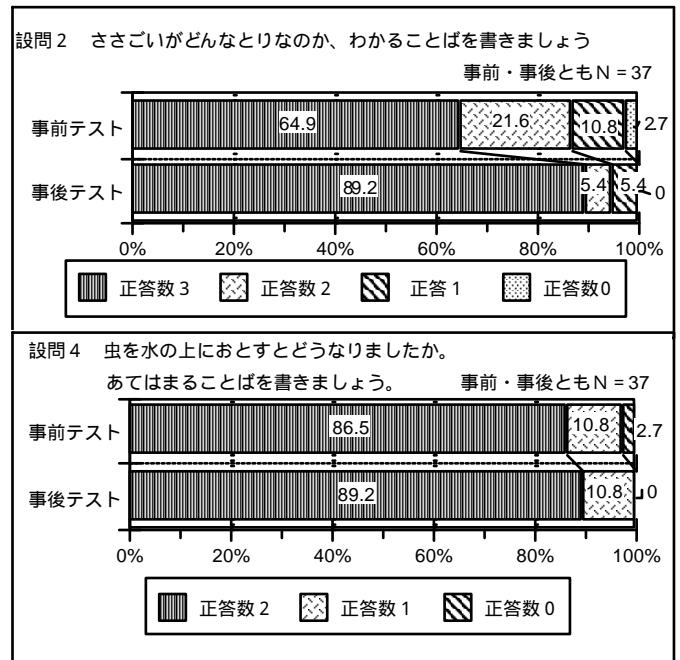
3時間分のイメージ構成シートの吹き出しへの記述内容を比較してみると、学習を重ねるごとに、C（言葉や絵と関連のない吹き出しを書いている）と判断される児童が減り、A（言葉や文を根拠にしながら、自分の思いや考えも含めて場面の把握に必要な吹き出しなどを全て書いている）またはB（言葉や文を根拠に、場面の把握に必要な吹き出しなどを全て書いている）と判断される児童が2時間目は89.2%、3時間目は94.6%と増えている。さらに、Aと判断される児童は、1時間目には56.8%であったが、2時間目には64.9%、3時間目には81.1%と大きな伸びを示している。

誤答があった。しかし、事後テストでは89.2%の児童

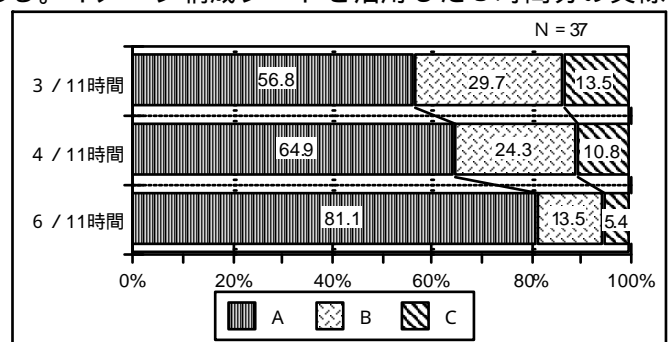
【表7】場面の様子をとらえる力の育成状況

検記内容	事前テスト		事後テスト		相関係数	t値	有意差
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差			
場面の様子をとらえる力	4.32	1.10	4.76	0.62	0.73	3.08	*

「注」 設問は2問で、設問2が3点、設問4が2点で、5点満点である
以下は【表6】と同じである



【図8】場面の様子をとらえる力に関する設問ごとの正答率



【図9】イメージ構成シートによる叙述に即してイメージする力の育成状況

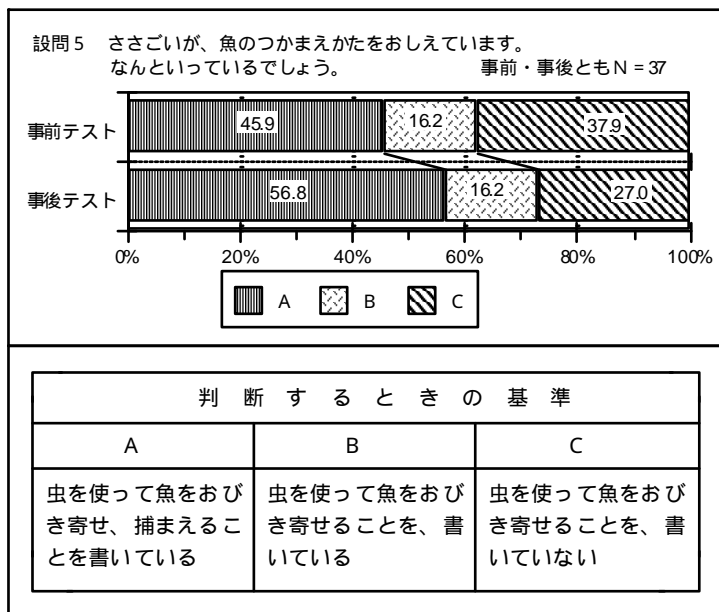
【表9】イメージ構成シートの吹き出しへの記述（一部抜粋）

		判 断 基 準		
		A	B	C
読み取り (3/11時)	イソギンチャク	<ul style="list-style-type: none"> ぼくには、どくのはりがあるんだよ。どくのはりで、小さなどうぶつをつかまえて食べるんだよ。 どくのはりがあるって、それで小さなどうぶつをつかまえるんだ。これがぼくのひみつ。 細長いたくさんのしよく手をゆらゆらさせているよ。どくのはりがあるから、気をつけてね。 	<ul style="list-style-type: none"> イソギンチャクのしよく手には、どくのはりがあるんだよ。 イソギンチャクは、しよく手にどくのはりをもっているんだよ。 ぼくのしよく手には、どくのはりがあるよ。 	<ul style="list-style-type: none"> わたしのしよく手には、どくのはりをゆらゆらさせています。 でも、おおわれているからだいじょうぶだよ。 わたしのしよく手には、どうぶつをとるためにどくがあるんだよ。
	クマノミ	<ul style="list-style-type: none"> ぼくも、さされるとたいへんなことになります。でも、ねばねばしたえきでおおわれているから、さされななんだよ。 ぼくの体は、ねばねばしたえきでおおわれているんだ。だから、イソギンチャクの中に入れて、だいじょうぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> クマノミは、ねばねばしたえきでおおわれているんだよ。 ねばねばしたえきで、おおわれているの。 	<ul style="list-style-type: none"> クマノミも、ねばねばしたらうごけなくなるんですよ。 ぼくもにてるけど、はりがあるって、ねばねばしたえきでおおわれているんだ。
読み取り (4/11時)	テレビのクマノミ	<ul style="list-style-type: none"> よかったよかった、あんげんだ。イソギンチャクさん、ありがとう。ぼくも、イソギンチャクさんを食べさせないよ。 食べられないからあんげんだ。イソギンチャクさん、ありがとう。 イソギンチャクの中にいるから、大きな魚に食べられないよ。 	<ul style="list-style-type: none"> イソギンチャクの中に入れば、あんげんだ。 食べられなくてよかった。 ここにいれば、あんげんだ。 これでもうだいじょうぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな魚は、ばかだなあ。 もう二とと来るんじゃないぞ。
	テレビのクマノミ	<ul style="list-style-type: none"> カチカチ。あっちへいけ。イソギンチャクを食べるな。イソギンチャクを食べたら、ゆるさないぞ。 カチカチ。イソギンチャクさんを食べるなんて。むむ。 カチカチ。あっちへ行けえ。だいじょうぶ、イソギンチャクさん。 	<ul style="list-style-type: none"> カチカチ。あっちへ行け。 カチカチ。もうくんな。 カチカチ。こっちにくるな。 カチカチ。食べるな。 	<ul style="list-style-type: none"> カチカチ。もうやだな。しーらない。
	イソギンチャク	<ul style="list-style-type: none"> ああよかった。クマノミさん、ありがとう。クマノミさんがいなかったら、どうなってたかな。 ふう。よかった。クマノミさんのおかげで、食べられなかったよ。 ありがとう、クマノミ君、やっぱり友だちだね。 	<ul style="list-style-type: none"> たすけてくれて、ありがとう。 食べられなくて、よかった。 クマノミさん、ありがとうございます。 おいはらってかれて、ありがとう。 	/
読み取り (6/11時)	ホンソメワケベラ	<ul style="list-style-type: none"> うわあ。虫がじわじわいた。ぜんぶそうじして、大きな魚をよるこばせよう。 大きな魚さん、きみもぼくにえさをくれているんだね。ありがとう。 虫がいっぱいいたいへんだ。でも、おいしいな。もっともっとおそうじしなくちゃ。 	<ul style="list-style-type: none"> 虫がいっぱい食べておいしい。 虫がいっぱい食べられるから、ありがとう。 おいしい虫をありがとう。 	<ul style="list-style-type: none"> たくさんのホンソメワケベラがきれいにそうじしてくれて、ありがとう。
	大きな魚	<ul style="list-style-type: none"> いつもホンソメワケベラがそうじしてくれるから、口がすっきりだな。 ホンソメワケベラくん、そうじしてくれてありがとう。これからも、よろしくね。 小さな虫がいなくなってすっきりしたなあ。ホンソメワケベラさん、ありがとう。 	<ul style="list-style-type: none"> ホンソメワケベラさん、そうじをしてくれて、ありがとう。 おそうじして、いいきもちだなあ。 ありがとう。きもちいいよ。 	/

次頁【図10】は、事前・事後テストの設問5への記述について、分析した結果をまとめたものである。事前テストと事後テストを比較してみると、事前テストでCと判断される児童は、37.9%であったが、事後テストでは、27.0%と減っている。一方、AまたはBと判断される児童は、事前テストでは62.1%であったが、事後テストでは73.0%と増えている。

このように A または B と判断される児童が増えたのは、以下のような理由からと考える。

読み取った内容を確認する段階では、児童に読み取ったことを動作化や話し合いをとおして交流させ、正しい読み取りを確認させた上で、自分の読み取りを見直し、「あたまのテレビ」に書いた吹き出しに補足、修正させる活動を行った。この活動を積み重ねることにより、児童は、言葉や文に注意しながら文章を読み、書かれている内容を叙述に即してイメージすることができるようになったと考える。



【図10】叙述に即してイメージする力の育成状況

これらのことから、叙述に即してイメージする力は、おおむね育成されたと考える。

しかし、事後テストでCと判断される児童は27.0%であり、決して少ないとは言えない。誤答の児童の記述内容を見ると、魚の捕り方について書いている部分に着目してはいるが、「虫をおとす」「魚が近づいてくる」というような言葉を書いていない児童が多かった。これは、ささごいが魚を捕るときの複数の行動を「おびき寄せて捕まえる」ひとまとまりの場面としてとらえられていないためと考える。児童の読み取りの状況によっては、イメージ構成シートを複数枚用意し、より細かい場面ごとに読み取らせるような工夫が必要である。

エ 抽出児における叙述に即して確かに読む力の育成状況

次頁【資料4】は、学習過程における、叙述に即して確かに読む力の育成状況を抽出児の学習の様子から考察したものである。抽出児は、事前テストでは学級で最も低い点数だった児童三名のうちの一であり、手だてとのかかわりで、力の高まりが最も顕著に見られた児童である。本研究の手だてである「イメージ構成シートを活用した学習活動」に意欲的に取り組んだ本児童の活動の様子及びイメージ構成シートへの記述についての分析を行ったところ、事柄の順序をとらえる力、場面の様子をとらえる力ともに、1時間目にはCがほとんどであったが、2時間目、3時間目と、学習を積み重ねるごとにBやAへと伸びがみられた。また、これら二つの力に基づいた叙述に即してイメージする力は、3時間ともAである。

これらのことからイメージ構成シートを活用しての学習は、抽出児の叙述に即して確かに読む力の育成に有効に働いたものと考えられる。

以上、叙述に即して確かに読む力の構成要素である、事柄の順序をとらえる力、場面の様子をとらえる力、叙述に即してイメージする力の育成状況について検証してきた。その結果、全ての力について高まりがみられた。よって、イメージ構成シートを活用した学習指導を取り入れた手だての試案に基づく学習指導は、叙述に即して確かに読む力の育成に効果があったと考える。

【資料4】抽出児の学習活動についての分析と考察

時間	段階	主な発問	判断基準			イメージ構成シートの活用	記述内容	・アンダーラインはAと判断される部分
			A	B	C			
3 / 11時間	読取り	<ul style="list-style-type: none"> クマノミとイソギンチャク、どちらが先に出てきていますか どうしてイソギンチャクだと分かりましたか どうしてクマノミだと分かりましたか 				書かれている順に、イソギンチャク、クマノミと書く クマノミをオレンジ色に塗る	<学習の様子> ・1時間をとおして、自分では、文章の中から発問に対する答えの根拠となる言葉や文を見つけれることができなかった。友達の発言から気付きサイドラインを引いたり、挙手したりしていた。 ・あたまたのテレビへは、全て叙述に即した内容を書き込むことができた。 ・吹き出しの内容は、初めBと判断される内容であったが、補足してAと判断される内容になった。	
	場面の様子をとらえる	<ul style="list-style-type: none"> イソギンチャクの秘密は何ですか クマノミの秘密は何ですか どんなときに毒の針が出るのですか 覆われているというのは、どういうことですか クマノミとイソギンチャクになって体の秘密を教えてください 				イソギンチャクの触手に毒の針を書く クマノミを水色で覆うように塗る クマノミとイソギンチャクになって吹き出しに書く		
	読み取った内容を確認する	<ul style="list-style-type: none"> あたまたのテレビの吹き出しを見直しましょう 				イソギンチャクの吹き出しに「しよく手には」を補足する		
4 / 11時間	読取り	<ul style="list-style-type: none"> 5段落で写真にも挿し絵にも写っていない生き物は何ですか 6段落で写真にも挿し絵にも写っていない生き物は何ですか 				書かれている順に、クマノミ、イソギンチャクと書く	<学習の様子> ・自分で文章を読み、大きな魚と小さな魚をつけることができた。 ・発問を聞いて、すぐに文章を読み始める姿が何度か見られた。 ・位置や表情など、言葉や文に直接書かれていないことについての発問には、なかなか答えられない。	
	場面の様子をとらえる	<ul style="list-style-type: none"> 大きな魚は、あたまたのテレビのどこに書けばいいでしょう 大きな魚は、どうして近づいてこないのでしょうか 小さな魚は、あたまたのテレビのどこに書けばいいでしょう 追い払っているクマノミは、どんな表情をしていますか 				・大きな魚と、その目を書く ・守られているクマノミの目と吹き出しを書く 小さな魚を書く ・追い払っているクマノミの目と吹き出しを書く ・イソギンチャクの吹き出しを書く		
	読み取った内容を確認する	<ul style="list-style-type: none"> あたまたのテレビの吹き出しを見直しましょう 				自分で書いた吹き出しを読み返している		
6 / 11時間	読取り	<ul style="list-style-type: none"> 初めて出てきたのは、どちらの生き物ですか 大きな魚と書いてあるところを指さしましょう どちらの魚がホンソメワケベラが分かる文にサイドラインを引きましょう 				書かれている順に、ホンソメワケベラ、大きな魚たちと書く	<学習の様子> ・自分で文章を読み、ホンソメワケベラの体の特徴を示す文を見つけれることができた。 ・びっくりする理由を写真と文からとらえて発言することができた。 ・写真や挿し絵には表れていない表情を言葉や文を根拠にして考えることは、難しい。 ・吹き出しは、Bと判断される内容であったが、補足することで、Aと判断される内容になった。	
	場面の様子をとらえる	<ul style="list-style-type: none"> どうしてびっくりするのですか 小さな魚が口の中に入ってきたとき、大きな魚はどんな表情なのでしょう 大きな魚たちは、ホンソメワケベラに何をあげているのでしょうか 大きな魚とホンソメワケベラは、どんなお話をしているのでしょうか 				大きな魚の目を書く ホンソメワケベラと大きな魚の吹き出しに書く		
	読み取った内容を確認する	<ul style="list-style-type: none"> あたまたのテレビの吹き出しを見直しましょう 				大きな魚の吹き出しに「口や体をきれいにしてくれて、ありがとう」を補足する		
<考察> ・3時間の学習活動とおして見ると、1時間目は発問に対する答えとなる言葉や文を自分で見つけることができなかったが、3時間目には見つけることができるようになってきている。ホンソメワケベラの体の特徴や、びっくりする理由をとらえられたことから、写真から得られる情報を言葉や文と結び付けて読むことができるようになってきたと考える。 ・吹き出しに書かれた内容を見ると、3時間とも叙述に即した内容になっている。これは、あたまたのテレビの生き物に表情を書いたり、色を塗ったりしたことで、言葉として読み取った様子をより具体的に思い描くことができたためと考える。さらに、自分の読み取りを見なおし、補足、修正する活動とおして、より正しい読み取りに基づいたイメージをもつことができたものとする。								

なお、本資料の分析は、8頁【表4】、9頁【表5】及び【補充資料3 - 】～【補充資料3 - 】の判断するときの基準に基づいて行った。

5 小学校低学年国語科において叙述に即して確かに読む力を育む学習指導に関する研究のまとめ
これまで、手だての試案に基づく授業実践を行い、実践結果の分析と考察をとおして、その有効性を考えてきた。その結果から、成果と課題についてまとめる。

(1) 成果

ア 言葉や文と挿し絵や写真を関連させながら主要なものに気付かせ、書かれている順序を確認してイメージ構成シートに整理させることにより、児童は、読み取る場面に書かれている事柄の順序を把握することができた。

イ 言葉や文に着目して読み取ったことを「あたまのテレビ」の挿し絵に色を塗ったり、表情を書き込んだりさせることにより、児童は、書かれている内容を明確に思い描き、読み取る場面の様子を把握することができた。

ウ 動作化や話し合いをとおして確認した正しい読み取りを基に自分の読み取りを見直させ、補足、修正させることにより、児童は、書かれている内容を叙述に即して思い描くことができた。

(2) 課題

一枚のイメージ構成シートでは書かれている内容を把握できない児童に対して、より細かい場面ごとに読み取らせる工夫をすること。

以上のことから、課題はあるものの、イメージ構成シートを活用した学習活動を取り入れた手だての試案は有効であり、叙述に即して確かに読む力を育むことに効果があったと考える。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

この研究は、イメージ構成シートを活用した学習活動をとおして、叙述に即して確かに読む力を育む学習指導の在り方について明らかにし、小学校国語科の学習指導の改善に役立てようとするものであった。その結果、仮説が妥当であったことが確かめられた。なお、成果として次のようなことが得られた。

(1) 小学校低学年国語科において叙述に即して確かに読む力を育む学習指導に関する基本構想

小学校低学年国語科において叙述に即して確かに読む力を育む学習指導に関する基本的な考え方や、イメージ構成シートを活用した学習活動を取り入れる意義とイメージ構成シートを活用した学習活動を取り入れた学習の展開について明らかにし、基本構想としてまとめることができた。

(2) 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察

児童の叙述に即して確かに読む活動や意識の実態を把握するために実態調査を行った。調査結果の分析と考察から明らかになったことを、手だての試案作成上の観点及び留意点としてまとめることができた。

(3) イメージ構成シートを活用した学習活動を取り入れた手だての試案の作成

基本構想及び実態調査から明らかになった手だての試案作成上の観点及び留意点を基にして、手だての試案を作成した。一単位時間における、事柄の順序をとらえる段階、場面の様子をとらえる段階、読み取った内容を確認する段階のイメージ構成シートの活用の仕方を示すことができた。

(4) 授業実践及び実践結果の分析と考察

手だての試案に基づいた授業実践により、イメージ構成シートを活用した学習活動を取り入れた手だての試案が、児童の叙述に即して確かに読む力を育む上で効果があることが分かった。

また、実践結果の分析と考察により、叙述に即して確かに読む力の育成が認められ、手だての試案が有効であることが確かめられた。

(5) 小学校低学年国語科において叙述に即して確かに読む力を育む学習指導に関する研究のまとめ

小学校低学年国語科において叙述に即して確かに読む力を育む学習指導について、成果と課題を明らかにすることができた。

2 今後の課題

本研究を今後さらに生かすための課題として、次のようなことが考えられる。

- (1) 「読むこと」の他の教材におけるイメージ構成シートの活用について検討すること。
- (2) 中・高学年の「読むこと」の学習におけるイメージ構成シートの様式や作成上の留意点、活用の仕方について検討すること。

おわりに

長期研修の機会を与えてくださいました関係諸機関の各位並びに所属校の諸先生方と児童のみなさんに心から感謝を申し上げ、結びのことばといたします。

【参考文献】

石田佐久馬(1992),『国語授業を変える文学教材の豊かな読みと教材解釈 イメージ化の読み』,東洋館出版社

石田佐久馬(1992),『作業を生かした国語授業の活性化 朗読・動作化・ワークシート』,東洋館出版社

本堂寛監修/嶋路和夫編(1988),『国語科基本的能力の指導体系第22巻「大体」の指導』,明治図書

本堂寛監修/柏村政編(1988),『国語科基本的能力の指導体系第24巻「叙述 要点・要旨」の指導』,明治図書

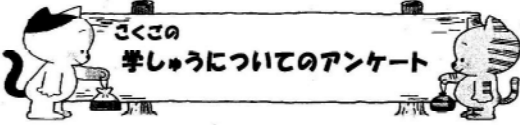
本堂寛監修/岩崎保編(1988),『国語科基本的能力の指導体系第25巻「叙述 情景・心情」の指導』,明治図書

【補充資料】

<目次>

【補充資料 1】	
手だての試案作成のための実態調査用紙	資 1
【補充資料 2】	
叙述に即して確かに読む力の育成状況をみる事前・事後テスト問題	資 1
【補充資料 3】	
学習の様子や記述内容から判断するときの基準（3 / 11時間）	資 2
【補充資料 3】	
学習の様子や記述内容から判断するときの基準（4 / 11時間）	資 3
【補充資料 3】	
学習の様子や記述内容から判断するときの基準（6 / 11時間）	資 4
【補充資料 4】	
単元「サンゴの海の生きものたち」の指導計画（11時間扱い）	資 5
【補充資料 5】	
単元「サンゴの海の生きものたち」の指導展開案（3 / 11時間）	資 6
【補充資料 5】	
単元「サンゴの海の生きものたち」の指導展開案（4 / 11時間）	資 7
【補充資料 5】	
単元「サンゴの海の生きものたち」の指導展開案（6 / 11時間）	資 8
【補充資料 6】	
イメージ構成シート（3 / 11時間）と児童の記述例	資 9
【補充資料 6】	
イメージ構成シート（4 / 11時間）と児童の記述例	資 10
【補充資料 6】	
イメージ構成シート（6 / 11時間）と児童の記述例	資 11

【補充資料1】手だての試案作成のための実態調査用紙



この アンケートは、みなさんが 楽しく こくごの 学しゅうをする ために つかいます。じぶん に 一ばん 近いと 思うものを 一つえらんで、() に ○を つけてください。

2年 組 ばん

1 あなたは、教科書を 読むとき、さし絵や シャしんを 見えていますか。

ア () いつも見ている
イ () ときどき見ている
ウ () あまり見ていない
エ () 見ていない

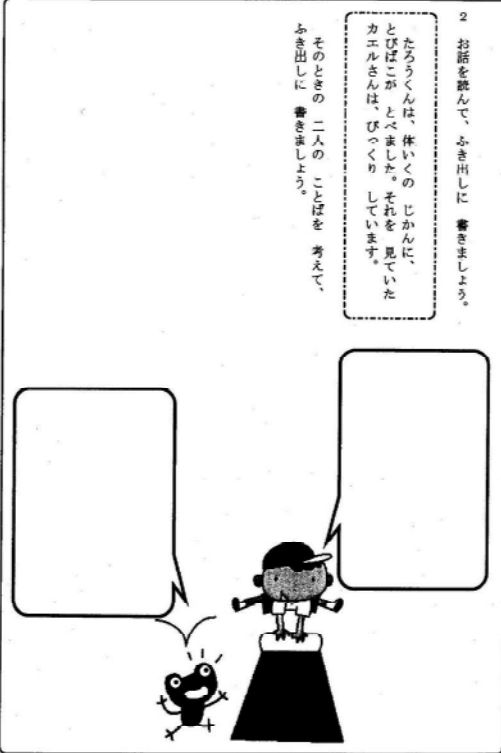
ア、イと 答えた人にだけ 聞きます。
審かれている ことばや 文と くらべながら、さし絵や シャしんを 見えていますか。

ア () いつも くらべながら 見ている
イ () ときどき くらべながら 見ている
ウ () あまり くらべながら 見ていない
エ () くらべながら 見ていない

2 お話を読んで、ふき出しに 書きましょう。


たろうくんは、体いくの じかに、 とびはこがとべました。それを 見ていた カエルさんは、びつくり しています。

そのときの 二人の ことばを 考えて、 ふき出しに 書きましょう。



【補充資料2】叙述に即して確かに読む力の育成状況を見るための事前・事後テスト問題

魚をつかまえる いちほうはうがあるんだよ。




「へえ、なるほどね。」

5 ささごいが、ほかの とりに 魚の つかまえたを おしえて います。ささごいが、なんと 知っているのか 考えて ふき出しに 書きましょう。

【出典】教育出版 ひろがることば 小学校国語二年上 「鳥の ちえ」 ひくち ひろよし

※ つぎの文しよを 読んで、もんだいに 答えましょう。

ささごいと、いう、とりが います。ささごいは、細長い くちばしを、もつ、青みどり色の とりで、体の、長さは、四十七センチメートルほど、あります。熊本県の、水前寺公園に すむ、ささごいは、ある、かわった やり方で、魚をとる、ことが、知られて、います。ささごいが、小さな 虫を、くわえて、いけの、水の上、におとすと、その、虫を、目がけて、魚が、近づいて、きました。すると、ささごいは、水の中、に、くちばしを、つつこんで、あつと、いう、まに、魚を、くわえて、しまいました。このように、ささごいは、虫をつかまえて、魚を、おびきよせ、つかまえる、ことが、あるのです。



1 この文しよは、なんという 生きものについて 書いて いますか。 []

2 ささごいは、どんな とりなのか、わかる、ことばを、書きましょう。 []

3 ささごいが、魚をとる、かわったやり方の、じゆんじよに、1から4までの、数字を、書きましょう。 []

4 ささごいが、虫を、水の上、におとすと、どうなり ましたか。あてはまる、ことばを、書きましょう。 []

[] を、目がけて、 [] きました。

国語「読むこと」についてのテスト

二年 組 ばん

【補充資料3】 学習の様子や記述内容から判断するときの基準（3 / 11時間）

検証内容	主な発問	判断するときの基準 (<input type="checkbox"/> は、Aと判断する基準がない)		
		A	B	C
事柄の順序をたどらせる力			写真から気付いた主要なものを、言葉や文から確認している	写真から気付いた主要なものを、言葉や文を根拠にして確認していない
	・クマノミとイソギンチャクでは、どちらが先に出てきますか		<発言例> ・「イソギンチャクです。」 ・「クマノミです。」 <行動例> ・指さしたり、サイドラインを引いたりしている	<発言例> ・イソギンチャク、クマノミと関係のない発言 <行動例> ・イソギンチャク、クマノミを文章の中から見つけていない
	・どうしてイソギンチャクだと分かりましたか		<発言例> ・「細長いしょく手をゆらゆらさせています、と書いてあるからです。」 <行動例> ・指さしたり、サイドラインを引いたりしている	<発言例> ・言葉や文に根拠のない発言 <行動例> ・根拠となる言葉や文を見つけていない
	・どうしてクマノミだと分かりましたか		<発言例> ・「きれいなオレンジ色の魚、と書いてあるからです。」 <行動例> ・指さしたり、サイドラインを引いたりしている	<発言例> ・言葉や文に根拠のない発言 <行動例> ・根拠となる言葉や文を見つけていない
場面の様子をたどらせる力		言葉や文を根拠にし、自分の思いや考えをもちながら場面の様子を読み取っている	言葉や文を根拠に場面の様子を読み取っている	言葉や文に関連させて場面の様子を読み取っていない
	・イソギンチャクのひみつは何ですか		<発言例> ・「しょく手に、どくのはりがあります。」 <行動例> ・指さしたり、サイドラインを引いたりしている	<発言例> ・言葉や文に根拠のない発言 <行動例> ・根拠となる言葉や文を見つけていない
	・クマノミのひみつは何ですか		<発言例> ・「クマノミの体は、ねばねばしたえきでおおわれています。」 <行動例> ・指さしたり、サイドラインを引いたりしている	<発言例> ・言葉や文に根拠のない発言 <行動例> ・根拠となる言葉や文を見つけていない
	・どんなときにどくのはりが出るのですか	<発言例> ・「小さなどうぶつをつかまえるときだと思います。」 <行動例> ・指さしたり、サイドラインを引いたりしている	<発言例> ・「これで、小さなどうぶつをつかまえて食べているのです。と書いてあります。」 <行動例> ・指さしたりサイドラインを引いたりしている	<発言例> ・言葉や文に根拠のない発言 <行動例> ・根拠となる言葉や文を見つけていない
	・おおわれているというのはどういうことでしょうか	<発言例> ・「包まれているということです。」 (全て、全部がという意味を含んでいる) <行動例> ・上記の発言に同調している	<発言例> ・「困まれていることです。」 (不十分ではあるが、自分の言葉で説明している) <行動例> ・上記の発言に同調している	<発言例> ・全く違う意味の発言 <行動例> ・おおわれていることの意味が分からない
叙述に即してイメージする力		正しい読み取りに基づいて自分の読み取りを見直し、自分の思いや考えももちながら、書かれている内容を叙述に即して思い描いている	正しい読み取りに基づいて自分の読み取りを見直し、書かれている内容を叙述に即して思い描いている	自分の読み取りが叙述に即していないにもかかわらず、補足、修正しない
	・あたまのテレビの吹き出しを見直しましょう	<記述例> Bの記述に加えて イソギンチャク ・「このはりで、小さなどうぶつをつかまえるんだよ。」 クマノミ ・「だから、イソギンチャクにさされないんだよ。」 <行動例> ・自分の読み取りを見直し、補足、修正することでAと判断される内容になっている ・Aと判断される自分の読み取りを読み返している(補足、修正は無い)	<記述例> イソギンチャク ・「わたしのしょく手には、どくのはりがあるんだよ。」 クマノミ ・「わたしの体は、ねばねばしたえきでおおわれているんだよ。」 <行動例> ・自分の読み取りを見直し、補足、修正することでBと判断される内容になっている ・Bと判断される自分の読み取りを読み返している(補足、修正は無い)	<記述例> イソギンチャク ・しょく手にどくのはりがあることが、書かれていない クマノミ ・ねばねばしたえきでおおわれていることが、書かれていない <行動例> ・Cと判断される自分の読み取りを補足、修正しない

【補充資料3】 学習の様子や記述内容から判断するときの基準（4 / 11時間）

検証内容	主な発問	判断するときの基準 (<input type="checkbox"/> は、Aと判断する基準がない)		
		A	B	C
事柄の順序をとらえる力	・5段落で、写真にも挿し絵にも写っていない生き物は何ですか		主要なものについて読み取る状況を、言葉や文から確認している <発言例> ・「クマノミを食べる大きな魚です。」 <行動例> ・指さしたり、サイドラインを引いたりしている	主要なものについて読み取る状況を、言葉や文から確認していない <発言例> ・大きな魚、小さな魚に関係のない発言 <行動例> ・大きな魚、小さな魚を文章の中から見つけていない
	・6段落で、写真にも挿し絵にも写っていない生き物は何ですか		<発言例> ・「イソギンチャクを食べにくる小さな魚です。」 <行動例> ・指さしたり、サイドラインを引いたりしている	<発言例> ・言葉や文に根拠のない発言 <行動例> ・根拠となる言葉や文を見つけていない
場面の様子をとらえる力		言葉や文を根拠にし、自分の思いや考えをもちながら場面の様子を読み取っている	言葉や文を根拠に場面の様子を読み取っている	言葉や文に関連させて場面の様子を読み取っていない
	・大きな魚は、あたまのテレビのどこに書けばいいでしょう	<発言例> ・「近づいてきません、と書いてあるから、離れたところに書けばいいと思います。」 <行動例> ・上記の発言に同調している	<発言例> ・「近づいてきません、と書いてあります。」 <行動例> ・指さしたり、サイドラインを引いたりしている	<発言例> ・言葉や文に根拠のない発言 <行動例> ・根拠となる言葉や文を見つけていない
	・大きな魚は、どうして近づいてこないのでしょうか	<発言例> ・「イソギンチャクのどくのはりがこわいからです。」 <行動例> ・上記の発言に同調している	<発言例> ・「イソギンチャクをこわがって、と書いてあります。」 <行動例> ・指さしたり、サイドラインを引いたりしている	<発言例> ・言葉や文に根拠のない発言 <行動例> ・根拠となる言葉や文を見つけていない
	・小さな魚は、あたまのテレビのどこに書けばいいでしょう	<発言例> ・「近づいてくると、と書いてあるから、近くに書けばいいと思います。」 <行動例> ・上記の発言に同調している	<発言例> ・「近づいてくると、と書いてあります。」 <行動例> ・指さしたり、サイドラインを引いたりしている	<発言例> ・言葉や文に根拠のない発言 <行動例> ・根拠となる言葉や文を見つけていない
	・追い払っているクマノミは、どんな表情をしていますか	<発言例> ・「追い払うから、怒ってる顔だと思います。」 <行動例> ・上記の発言に同調している	<発言例> ・「おいはらってしまいます。と書いてあります。」 <行動例> ・指さしたり、サイドラインを引いたりしている	<発言例> ・言葉や文に根拠のない発言 <行動例> ・どんな表情が分からない
叙述に即してイメージする力		正しい読み取りに基づいて自分の読み取りを見直し、自分の思いや考えをもちながら、書かれている内容を叙述に即して思い描いている	正しい読み取りに基づいて自分の読み取りを見直し、書かれている内容を叙述に即して思い描いている	自分の読み取りが叙述に即していないにもかかわらず、補足、修正しない
	・あたまのテレビの吹き出しを見直しましょう	<記述例> Bの記述に加えて テレビのクマノミ ・「ありがとうイソギンチャクさん。まもってくれて。」 テレビのクマノミ ・「イソギンチャクさんを食べちゃだめ。」 イソギンチャク ・「クマノミさんのおかげでたすかったよ。」 <行動例> ・自分の読み取りを見直し、補足、修正することでAと判断される内容になっている ・Aと判断される自分の読み取りを読み返している（補足、修正は無い）	<記述例> テレビのクマノミ ・「大きな魚に食べられないよ。」 テレビのクマノミ ・「カチカチ。あっちへ行け。」 イソギンチャク ・「おいはらってくれて、ありがとう。」 <行動例> ・自分の読み取りを見直し、補足、修正することでBと判断される内容になっている ・Bと判断される自分の読み取りを読み返している（補足、修正は無い）	<記述内容> テレビのクマノミ ・安全であること、食べられないことが書かれていない テレビのクマノミ ・カチカチという音と、追い払う言葉が書かれていない イソギンチャク ・追い払ってもらったことや、食べられなかったことが書かれていない <行動例> ・Cと判断される自分の読み取りを補足、修正しない

【補充資料3】 学習の様子や記述内容から判断するときの基準（6 / 11時間）

検証内容	判断するときの基準 (<input type="checkbox"/> は、Aと判断する基準がない)		
	A	B	C
主な発問			
事柄の順序をとらえる力		写真から気付いた主要なものを、言葉や文から確認している	写真から気付いた主要なものを、言葉や文から確認していない
・初めに出てきたのはどちらの生き物ですか		<発言例> ・「ホンソメワケベラです。」 <行動例> ・指さしたり、サイドラインを引いたりしている	<発言例> ・ホンソメワケベラ以外の発言 <行動例> ・ホンソメワケベラを文章の中から見つけていない
・大きな魚と書いてあるところを指さしましょう		<行動例> ・大きな魚、大きな魚たちをどちらも指さしている	<行動例> ・大きな魚、大きな魚たちを文章の中から見つけていない
・どうしてこの魚がホンソメワケベラと分かりましたか		<発言例> ・「あかるい青色の体に（中略）黒いすじが1本ありますと書いてあるから分かります。」 <行動例> ・指さしたり、サイドラインを引いたりしている	<発言例> ・言葉や文に根拠のない発言 <行動例> ・根拠となる言葉や文を見つけていない
場面の様子をとらえる力	言葉や文を根拠にし、自分の思いや考えをもちながら場面の様子を読み取っている	言葉や文を根拠に場面の様子を読み取っている	言葉や文に関連させて場面の様子を読み取っていない
・どうしてびっくりするのですか	<発言例> ・「大きな魚の口の中に、自分から入っている、食べられようとしているみたいだからです。」 <行動例> ・上記の発問に同調している	<発言例> ・「大きな魚の口の中に入っていくのを見ると、と書いてあります。」 <行動例> ・指さしたり、サイドラインを引いたりしている	<発言例> ・言葉や文に根拠のない発言 <行動例> ・根拠となる言葉や文を見つけていない
・小さな魚が口の中に入ってきたとき、大きな魚はどんな表情なのでしょう	<発言例> ・「きれいにそうじしてくれるのを知ってきたとき、と書いてあるから、にこにこしていると思います。」 <行動例> ・上記の発言に同意している	<発言例> ・「きれいにそうじしてくれるのを知っている、と書いてあります。」 <行動例> ・上記の発言に同調している	<発言例> ・言葉や文に根拠のない発言 <行動例> ・どんな表情が分からない
・大きな魚たちはホンソメワケベラに何をあげているのでしょうか	<発言例> ・「食べものです。」 <行動例> ・上記の発言に同意している	<発言例> ・「そうじをしてとった虫が、食べものになる、と書いてあります。」 <行動例> ・指さしたり、サイドラインを引いたりしている	<発言例> ・言葉や文に根拠のない発言 <行動例> ・根拠となる言葉や文を見つけていない
叙述に即してイメージする力	正しい読み取りに基づいて自分の読み取りを見直し、自分の思いや考えももちながら、書かれている内容を叙述に即して思い描いている	正しい読み取りに基づいて自分の読み取りを見直し、書かれている内容を叙述に即して思い描いている	自分の読み取りが叙述に即していないにもかかわらず、補足、修正しない
・あたまのテレビの吹き出しを見直しましょう	<記述例> Bの記述に加えて 大きな魚 ・「きょうも、そうじをおねがいするよ。」 ホンソメワケベラ ・「ぼくたち、おなががいっぱだよ。」 <行動例> ・自分の読み取りを見直し、補足、修正することでAと判断される内容になっている ・Aと判断される自分の読み取りを読み返している（補足、修正は無い）	<記述例> 大きな魚 ・「おそうじをしてくれて、ありがとう。」 ホンソメワケベラ ・「虫を食べさせてくれて、ありがとう。」 <行動例> ・自分の読み取りを見直し、補足、修正することでBと判断される内容になっている ・Bと判断される自分の読み取りを読み返している（補足、修正は無い）	<記述内容> 大きな魚 ・掃除のことや、きれいになったことが書かれていない ホンソメワケベラ ・虫を食べることが書かれていない <行動例> ・Cと判断される自分の読み取りを補足、修正しない

【補充資料4】単元「サンゴの海の生きものたち」の指導計画（11時間扱い）

時	学習指導目標	学習活動	イメージ構成シートの活用
1	範読を聞き、初めて知ったことや驚いたこと、疑問に思ったことについて書くことができる	海の中のイメージを広げる ・拡大した写真から、海の中のイメージをもつ 範読を聞き、感想を書く 学習のめあてをもつ ・単元名とリード文に着目し、めあてを把握する ・生き物図鑑を作ることを知る	
2	文章を意味段落に分け学習の見通しをもつことができる	写真を文章に書かれている順に並べる ・文章全体の大まかな流れをとらえる 文章を意味段落に分ける ・写真と学習のめあてを手がかりに、文章を意味段落に分ける	
3 ・ 4 ・ 6	生き物たちの体の仕組みや、かかわり合いを読み取ることができる	読み取る事柄を確認する ・写真と学習課題から、何について読み取っていくのかを把握する 書かれている内容を読み取る ・学習課題にかかわる言葉や文に着目し、写真と関連させながら書かれている内容を読み取る 正しい読み取りを確認する ・読み取ったことを動作化し、話し合うことで、正しい読み取りを確認する	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 事柄の順序をとらえる </div> <ul style="list-style-type: none"> ・写真と文章から確認した主要なものを記入させる <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 場面の様子をとらえる </div> <ul style="list-style-type: none"> ・あたまのテレビに、読み取り、思い描いたことを言葉や絵、吹き出しなどで書き込ませる <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 叙述に即してイメージする </div> <ul style="list-style-type: none"> ・あたまのテレビに書いたことを基に、動作化させる ・動作化や話し合いで確認したことを基に、自分の読み取り（あたまのテレビ）を見直し、必要に応じて補足、修正させる
5 ・ 7	読み取ったかかわり合いを文章に書いてまとめることができる	読み取ったかかわり合いの様子を思い出して整理する ・写真を基に、思い出す ・かかわり合いを表す言葉や文に注目するかかわり合いの様子を文章に書いてまとめる	
8	生き物図鑑の内容を知り、視点をもって本を読むことができる	教科書で学習した海の生き物について振り返る 生き物図鑑に書くことを知り、本を読むときの視点をつかむ ・教科書P77を参考にして、生き物図鑑のイメージをもつ 本を読み、どんな種類の生き物について教えるかを定める ・動物・鳥・虫・海や川の生き物	
9	生き物についての本を読み、1年生に教えたい生き物を決めることができる	自分が決めた種類の生き物についての本を読む 1年生に教えたい生き物を決め、発表する	
10	生き物について1年生に教えたいことを書くことができる	1年生に教えたいことを決める 教えたいことを二～三文で書く 隣同士で読み合い、見直す	
11	生き物について1年生に教えたいことを絵と文でまとめることができる	下書きを読み、教えたいことを確認する 教えたい生き物について絵と文で書く グループで発表し合う 本単元の学習を振り返る	

【補充資料5】 単元「サンゴの海の生きものたち」の指導展開案（3/11時間）

(1)目 標 イソギンチャクとクマノミの体の仕組みを読み取り、それぞれの体の秘密を教える吹き出しを書くことができる。

(2)評価規準

評価場面	評価規準	具体の評価規準		Cの児童への支援
		A	B	
イソギンチャクとクマノミのそれぞれの体の仕組みについて教える内容の吹き出しを書く (イメージ構成シート)	イソギンチャクとクマノミの体の仕組みを正しく読み取り、それぞれの体の仕組みを教える吹き出しを書いている(読む)	Bの内容に加えて、小さな動物を捕まえることや、イソギンチャクに刺されないことを記述している	イソギンチャクの触手には毒の針があることと、クマノミの体はねばねばした液で覆われていることを記述している	あたまのテレビの挿し絵を見直させ、言葉や文から確認させる

(3)展 開 (3/11 時間)

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 (イメージ構成シートの活用)
導 入 (5)	1 本時の学習課題を確認する 生きものたち(イソギンチャクとクマノミ)の「体はかせ」になろう。 ・写真から、イソギンチャクとクマノミについて書かれていることに気付く	
展 開 (35)	2 学習の見通しをもつ (1) 学習場面を音読する (2) 3段落の言葉や文を根拠に、場面の主要なものであるイソギンチャクとクマノミを確認する ・細長いたくさんのしよく手(イソギンチャク) ・きれいなオレンジ色(クマノミ) ・しよく手の間に(クマノミ)	・3段落、4段落ともに、イソギンチャク、クマノミの順で書かれていることを確認して書き込み、イソギンチャクの体、クマノミの体の順で読み取っていくことをおさえる ・挿し絵のクマノミにオレンジ色を塗らせる
	3 イソギンチャクとクマノミの体の特徴を、読み取る (1) 4段落で課題にかかわる言葉や文にサイドラインを引き、発表する ・どくのはり ・ねばねばしたえきでおおわれています (2) 体の特徴について話し合う (3) 読み取ったことを、あたまのテレビに書き込む 4 正しい読み取りを確認する (1) イソギンチャクとクマノミになって動作化をし、お互いの特徴を教え合う (2) 動作化について、言葉や文と関連させて話し合う (3) 自分の読み取りを見直す 5 本時のまとめをする (1) まとめを書く (2) 学習場面を音読する	・毒の針と、ねばねばした液を挿し絵に書き込ませる ・それぞれの体の特徴を教える吹き出しを、書かせる ・読み取った、立つ位置(写真・しよく手の間に)、教える順序(書かれている順序)、教える内容(どくのはり・ねばねばしたえき)に気をつけて動作化させ、話し合わせる ・自分のあたまのテレビを見直し、必要に応じて補足、修正させる ・イソギンチャクとクマノミの体の特徴についてまとめを書かせる
終 末 (5)	6 本時の学習を振り返る	

【補充資料5】 単元「サンゴの海の生きものたち」の指導展開案（4 / 11時間）

(1)目 標 大きな魚や小さな魚から守り合っているイソギンチャクとクマノミのかかわり合いを読み取り、それぞれの立場から吹き出しを書くことができる。

(2)評価規準

評価場面	評価規準	具体の評価規準		Cの児童への支援
		A	B	
イソギンチャクとクマノミのそれぞれの立場からの吹き出しを書く (イメージ構成シート)	イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを読み取り、それぞれの立場からの吹き出しを書いている(読む)	Bの内容に加えて、自分の思いや考えも含めて吹き出しに記述している	言葉や文を根拠に、追い払う言葉と、守られていることが分かる言葉を記述している	あたまのテレビの挿し絵を見直させ、言葉や文から確認させる

(3)展 開 (4 / 11時間)

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 (イメージ構成シートの活用)
導 入 (5)	1 本時の学習課題を確認する 生きものたち(イソギンチャクとクマノミ)の「かかわり合いはかせ」になろう。 ・写真から、イソギンチャクとクマノミについて書かれていることを確認する	
展 開	2 学習の見通しをもつ (1) 学習場面を音読する (2) 場面の主要なものであるイソギンチャクとクマノミを確認し、読み取る事柄の順序をとらえる	・5段落、6段落の言葉や文から、クマノミの敵が来たとき、イソギンチャクの敵が来たときの順でかかわり合いを読み取っていくことを確認し、クマノミ、イソギンチャクと書き込む
(35)	3 イソギンチャクとクマノミの守り合っている関係を読み取る (1) 5段落から、クマノミがイソギンチャクに守られていることを読み取る ・イソギンチャクをこわがって、近づいてきません(大きな魚) ・クマノミはあんぜん ・この魚が近づいてくると(小さな魚) ・カチカチ ・おいはらってしまいます (2) 6段落から、イソギンチャクがクマノミに守られていることを読み取る ・この魚が近づいてくると(小さな魚) ・カチカチ ・おいはらってしまいます	・言葉や文を根拠にして、5段落のテレビに大きな魚、6段落のテレビに小さな魚を書き込ませ、クマノミ、イソギンチャクとの位置関係をつかませる ・5段落のテレビには、イソギンチャクをこわがって近づかない大きな魚と、安全に守られているクマノミの表情と言葉を考えさせ、目と吹き出しを書かせる ・6段落のテレビには、小さな魚を追い払うクマノミの表情と言葉を考えさせ、目と吹き出しを書かせる
	4 正しい読み取りを確認する (1) イソギンチャクとクマノミになって動作化をし、守り合っている様子を確認する (2) 動作化について、言葉や文と関連させて話し合う (3) 自分の読み取りを見直す	・読み取った、立つ位置(近づいてきません)、かかわり合いの順序(書かれている順序)、吹き出しの内容(こわがって、あんぜんです、食べにくる、カチカチ、おいはらって)に気をつけて動作化させ、話し合わせる ・自分のあたまのテレビを見直し、必要に応じて補足、修正させる
	5 本時のまとめをする (1) まとめを書く (2) 学習場面を音読する	・イソギンチャクとクマノミの守り合っている関係についてまとめを書かせる
終 末 (5)	6 本時の学習を振り返る	

【補充資料5】 単元「サンゴの海の生きものたち」の指導展開案（6 / 11時間）

(1) 目 標 ホンソメワケベラと大きな魚たちの、掃除をしてもらい、食べ物をもらっているという関係を読み取り、それぞれの立場から吹き出しを書くことができる。

(2) 評価規準

評価場面	評価規準	具体の評価規準		Cの児童への支援
		A	B	
ホンソメワケベラと大きな魚たちのそれぞれの立場からの吹き出しを書く (イメージ構成シート)	ホンソメワケベラと大きな魚たちのかかわり合いを読み取り、それぞれの立場からの吹き出しを書いている (読む)	Bの内容に加えて、自分の思いや考えも含めて吹き出しに記述している	言葉や文を根拠に掃除をしてもらうことと、食べ物をもらうことが分かる言葉を記述している	あたまのテレビの挿し絵を見直させ、言葉や文から確認させる

(3) 展 開 (6 / 11時間)

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 (イメージ構成シートの活用)
導 入 (5)	1 本時の学習課題を確認する 生きものたち(ホンソメワケベラと大きな魚たち)の「かかわり合いはかせ」になるう。 ・写真から、ホンソメワケベラと大きな魚について書かれていることを確認する	
展 開 (35)	2 学習の見通しをもつ (1) 学習場面を音読する (2) 第8段落の言葉や文と写真から、場面の主要なものであるホンソメワケベラと大きな魚たちを確認する ・明るい青色の体 ・黒いすじ ・12センチメートルほど	・言葉や文と写真を関連させながら指し示し、場面の主役としてホンソメワケベラと大きな魚たちを確認させてから、書き込ませる
	3 ホンソメワケベラと大きな魚たちのかかわり合いを読み取る (1) 8段落から、ホンソメワケベラが大きな魚にしていることを読み取る ・入っていく ・体や口の中についた虫 ・きれいにそうじしてくれるのを知っている (2) 9段落から、大きな魚がホンソメワケベラにしていることを読み取る ・そうじ魚 ・とった虫が、食べものになる	・8段落のテレビには、掃除をしてもらっている大きな魚の表情を考えさせ、目を書き込ませる ・食べものをもらっているホンソメワケベラと、きれいに掃除をしてもらっている大きな魚の目を書かせ、言葉を考えさせて吹き出しに書かせる
	4 正しい読み取りを確認する (1) ホンソメワケベラと大きな魚になって動作化し、かかわり合いの様子を再現する (2) 動作化について、言葉や文と関連させて話し合う (3) 自分の読み取りを見直す	・読み取った、位置関係(体や口の中に)、かかわり合いの順序(書かれている順序)、吹き出しの内容(入っていく、きれいにそうじしてくれるのを知っている、とった虫が食べものになる)に気をつけて動作化させ、話し合わせる ・自分のあたまのテレビを見直し、必要に応じて補足、修正させる
	5 本時のまとめをする (1) まとめを書く (2) 学習場面を音読する	・ホンソメワケベラと大きな魚たちのかかわり合いについてまとめを書かせる
終 末 (5)	6 本時の学習を振り返る	

【補充資料6】イメージ構成シート(3/11時間)と児童の記述例

まごめ

インギンチャクの
あります。クマンミの
はおおわれています。だからクマンミは、

には、
でが

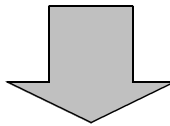
まごめ

あたまたのテレビ

かだい

サシゴの海の生きものたちの名前)

生きものたちの体はかせになろう。



まごめ

インギンチャクの
あります。クマンミの
はおおわれています。だからクマンミは、

には、
でが

クマンミ

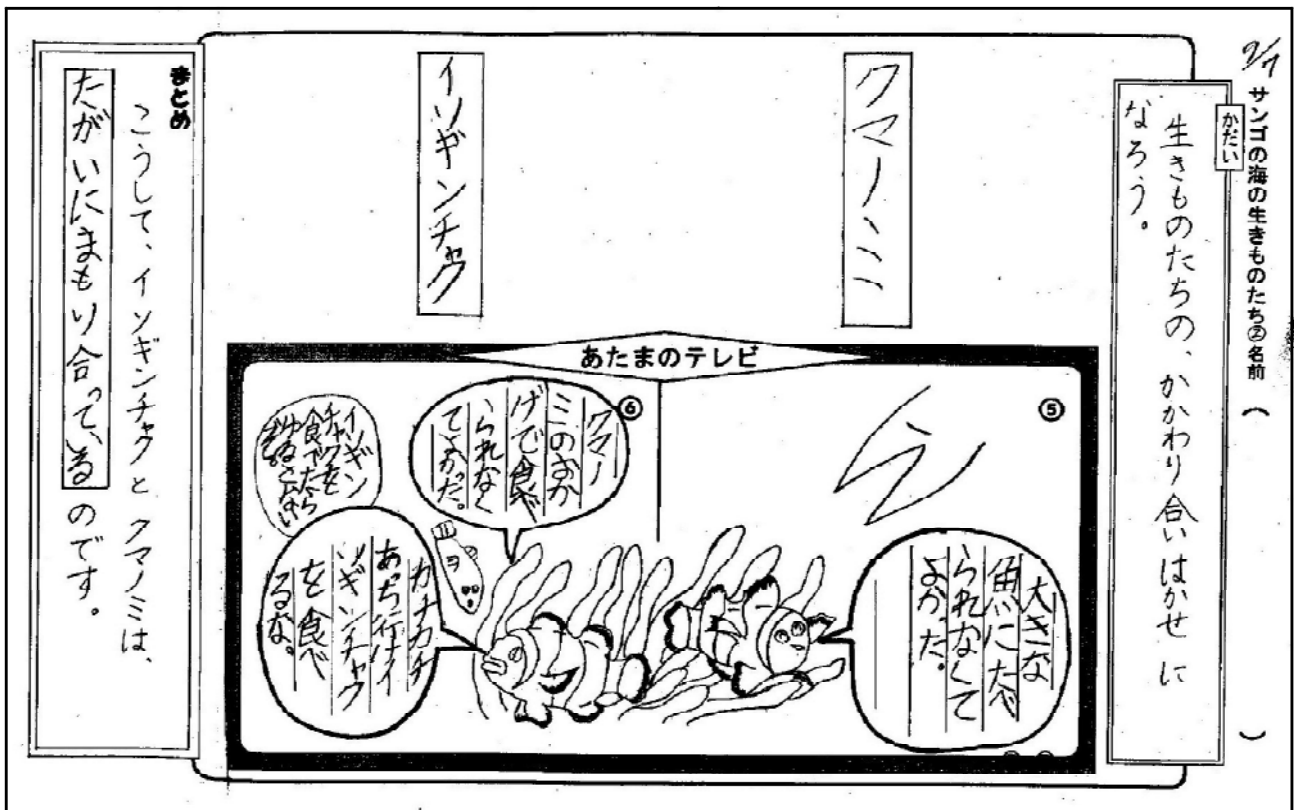
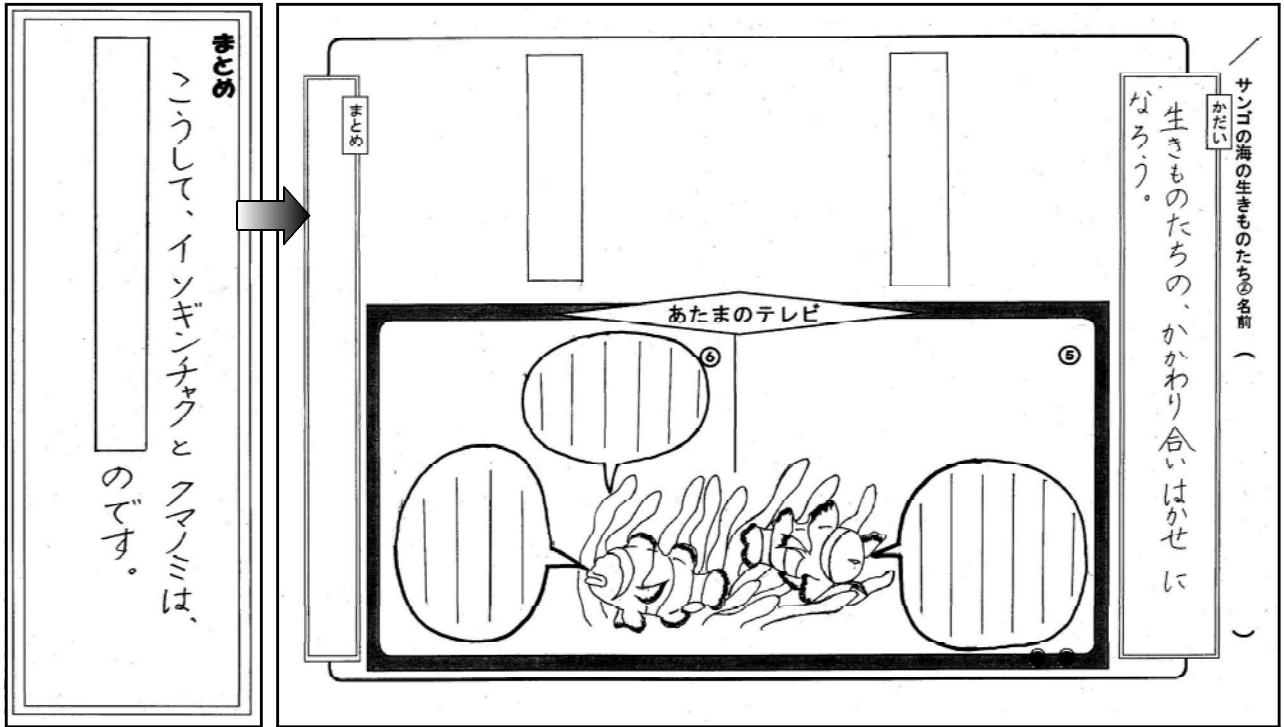
あたまたのテレビ

かだい

9/6 サシゴの海の生きものたちの名前)

生きものたちの体はかせになろう。

【補充資料6】 イメージ構成シート（4 / 11時間）と児童の記述例

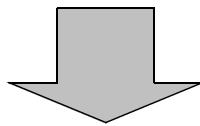


【補充資料6】イメージ構成シート（6 / 11時間）と児童の記述例

まごめ
こうして、ホンソメワケベラと大きな魚たちは、
[]
のです。

あたまのテレビ

かだい
サンゴの海の生きものたち⑨ 名前)
生きものたちの、かわり合いはかせになろう。



まごめ
こうして、ホンソメワケベラと大きな魚たちは、
[]
のです。

あたまのテレビ

大きな魚たち

ホンソメワケベラ

かだい
9/2 サンゴの海の生きものたち⑨ 名前)
生きものたちの、かわり合いはかせになろう。